

# 幸せな結婚を目指して

Y.Y. (@ygussany)

第8回関西すうがく徒のつどい 2016/03/21

# 注意

本講演は**フィクション**です

幸せになれなくても責任は負いません

# 幸せそうな結婚2016

僕にとってはもったいないくらいパーフェクト

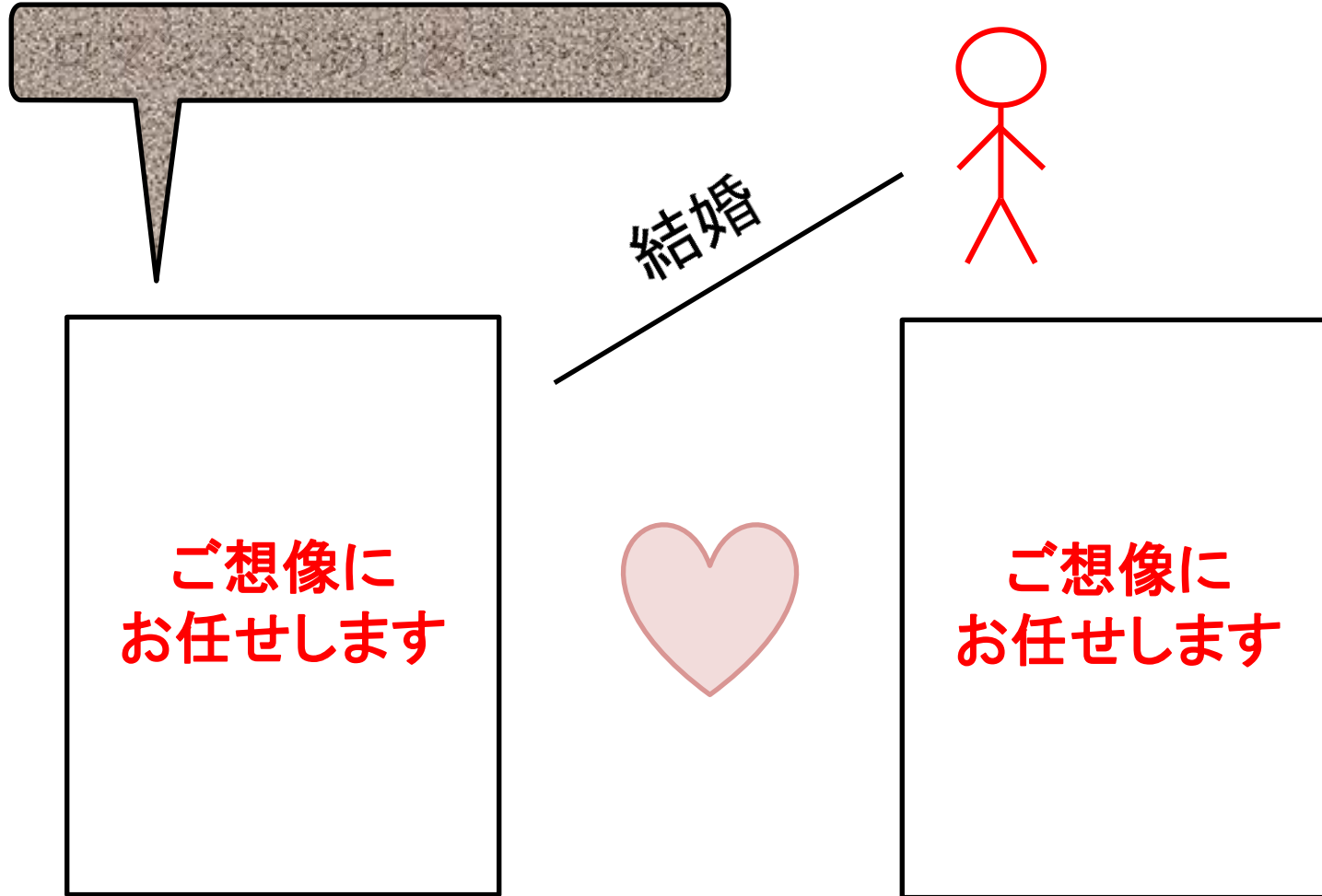
すべてに惹かれてこういう形になったと思います

ご想像に  
お任せします



ご想像に  
お任せします

# 幸せそうでない結婚2016



# 全体の構成

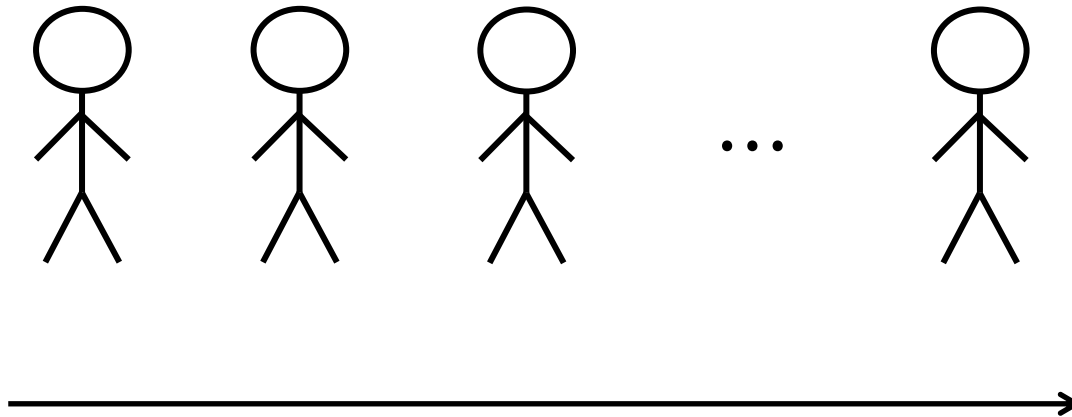
- 個人が幸せになるためには
  - 1番好きな人と結婚できる確率を上げる
  - 結婚相手の順位の期待値を下げる
- 安定な結婚とは
  - 駆け落ちが起こらないカップリング
  - 絶望の定理 (田舎の病院定理)
  - 嘘つきは得をするか

# 全体の構成

- 個人が幸せになるためには
  - 1番好きな人と結婚できる確率を上げる
  - 結婚相手の順位の期待値を下げる
- 安定な結婚とは
  - 駆け落ちが起こらないカップリング
  - 絶望の定理 (田舎の病院定理)
  - 嘘つきは得をするか

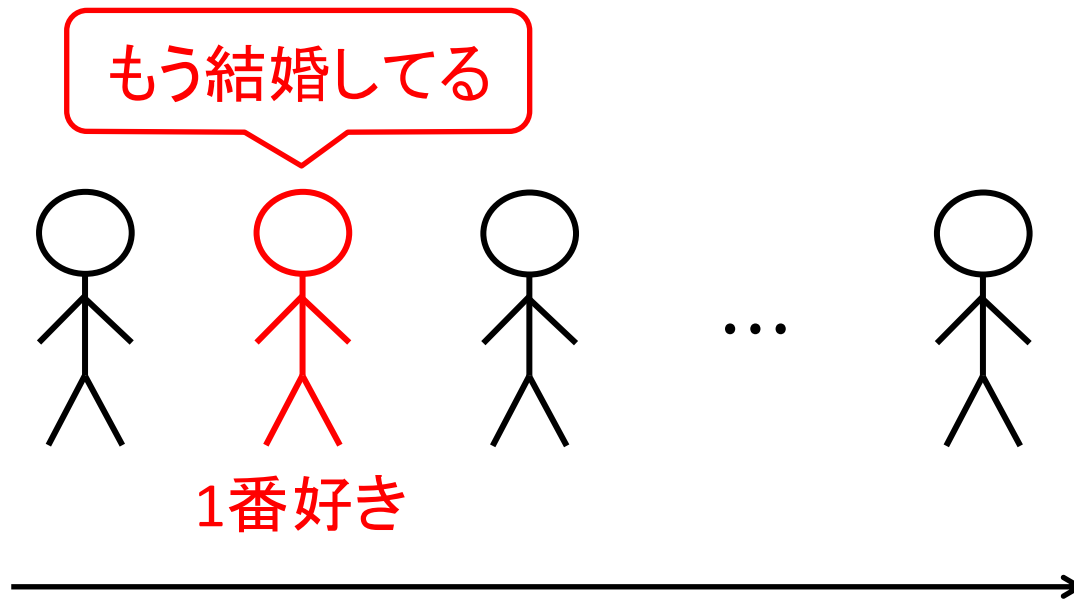
# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

出会いと別れは逐次的



# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

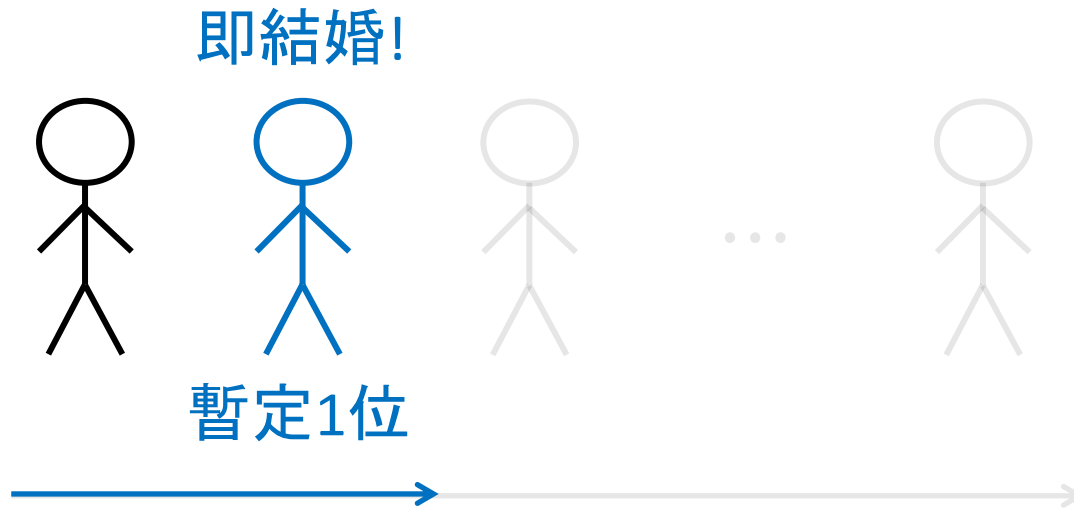
出会いと別れは逐次的





# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

出会いと別れは逐次的



# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

出会いと別れは逐次的



# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

出会いと別れは逐次的

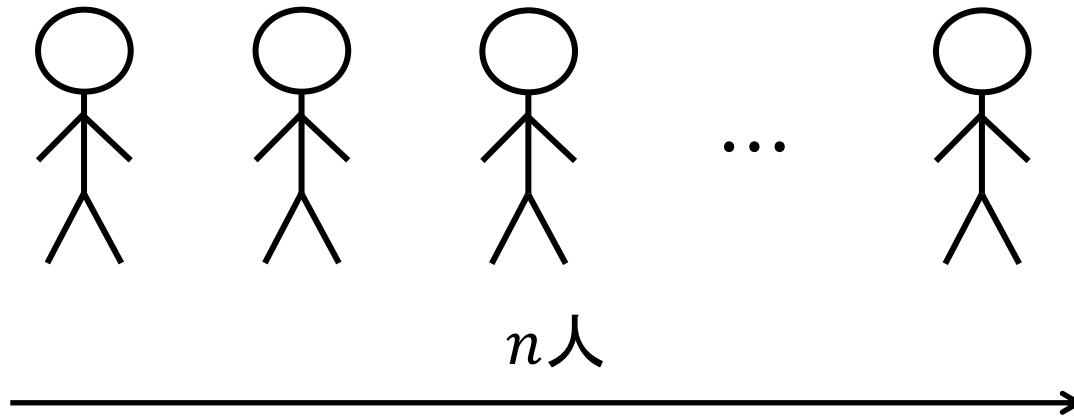
いつ結婚を決断すればいいのか??



# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

$n$ : 自然数 (既知)

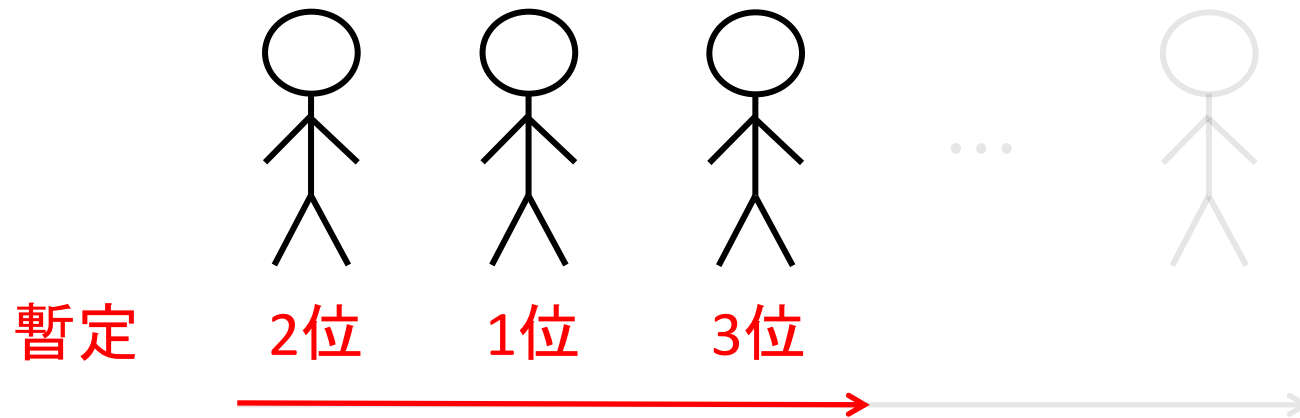
- $n$ 人の候補者が**一様ランダム**な順番で現れる



# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

$n$ : 自然数 (既知)

- $n$ 人の候補者が**一様ランダム**な順番で現れる
- 候補者が現れると, 既に現れた候補者の中での**相対順位**が明らかになる (予め全順序が定まっている)



# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

$n$ : 自然数 (既知)

- $n$ 人の候補者が**一様ランダム**な順番で現れる
- 候補者が現れると、既に現れた候補者の中での**相対順位**が明らかになる (予め全順序が定まっている)
- 候補者が現れるたびに、  
即座に「**見送る**」か「**結婚する**」を選ばなければならず、  
**一度行った選択は覆せない**

※ただし相手の意向は無視できるものとする

# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

願望1: 全体で見て1位の人と結婚したい

# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

願望1: 全体で見て1位の人と結婚したい

全体の  $1/e$  程度を無条件で見送り,  
その後暫定1位の候補者が現れたときに結婚すれば,  
**確率  $1/e (\approx 0.3679)$  以上**で達成可能 (漸近的に最適)



# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

願望1: 全体で見て1位の人と結婚したい

全体の  $1/e$  程度を無条件で見送り,  
その後暫定1位の候補者が現れたときに結婚すれば,  
**確率  $1/e (\approx 0.3679)$  以上**で達成可能 (漸近的に最適)

願望2: 結婚相手の順位の期待値を小さくしたい

上記の戦略だと  $n/2e$  **以上** (あまり良くない)  
少し工夫すると **3.87 以下**にできる (漸近的に最適)

[Chow et al. 1964]

# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

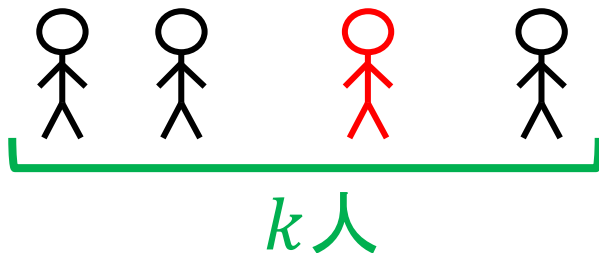
# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

$k$ 人目 ( $0 \leq k < n$ ) まで見送ることを心に決めるとする

- $k$ 人目までに**絶対順位1位の候補者**が現れれば失敗



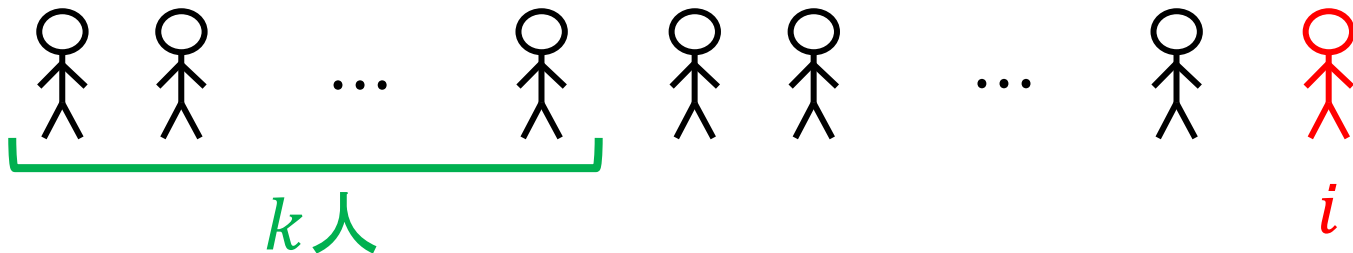
# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

$k$ 人目 ( $0 \leq k < n$ ) まで見送ることを心に決めるとする

- $k$ 人目までに絶対順位1位の候補者が現れれば失敗
- **1位の候補者が $i$ 番目** ( $k < i \leq n$ ) に現れるとする



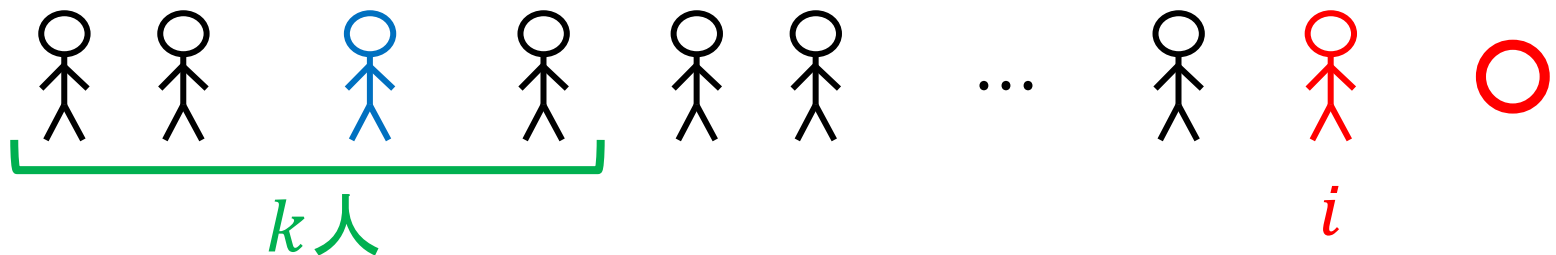
# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

$k$ 人目 ( $0 \leq k < n$ ) まで見送ることを心に決めるとする

- $k$ 人目までに絶対順位1位の候補者が現れれば失敗
- **1位の候補者が*i*番目** ( $k < i \leq n$ ) に現れるとすると,  
 **$i - 1$ 人目までの相対順位1位**が $k$ 人目以前なら成功



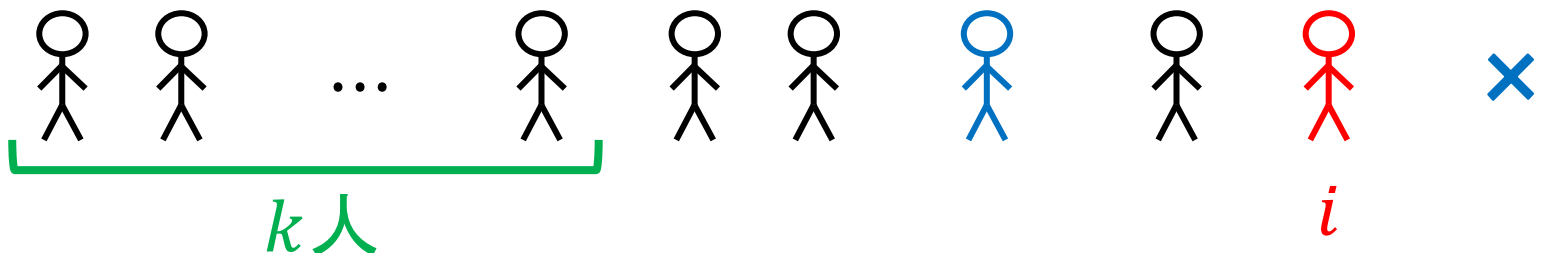
# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

$k$ 人目 ( $0 \leq k < n$ ) まで見送ることを心に決めるとする

- $k$ 人目までに絶対順位1位の候補者が現れれば失敗
- **1位の候補者が*i*番目** ( $k < i \leq n$ ) に現れるとすると,  
 **$i - 1$ 人目までの相対順位1位**が $k$ 人目以前なら成功



# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

$k$ 人目 ( $0 \leq k < n$ ) まで見送ることを心に決めるとする

- $k$ 人目までに絶対順位1位の候補者が現れれば失敗
- **1位の候補者が*i*番目** ( $k < i \leq n$ ) に現れるとすると,  
 **$i - 1$ 人目までの相対順位1位**が $k$ 人目以前なら成功

$$(\text{成功確率}) = \frac{1}{n} \sum_{i=k+1}^n \frac{k}{i-1}$$

# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

$k$ 人目 ( $0 \leq k < n$ ) まで見送ることを心に決めるとする

$$\begin{aligned} \text{(成功確率)} &= \frac{1}{n} \sum_{i=k+1}^n \frac{k}{i-1} = \frac{k}{n} \sum_{i=k+1}^n \frac{1}{i-1} \\ &\geq \frac{k}{n} \int_k^n \frac{1}{t} dt = -\frac{k}{n} \log \frac{k}{n} \end{aligned}$$



# 1位の人と結婚したい場合

適当なタイミングで相対順位1位の人と結婚するしかない

→ いつ決断すべき??

$k$ 人目 ( $0 \leq k < n$ ) まで見送ることを心に決めるとする

$$\text{(成功確率)} = \frac{1}{n} \sum_{i=k+1}^n \frac{k}{i-1} = \frac{k}{n} \sum_{i=k+1}^n \frac{1}{i-1}$$

$$\geq \frac{k}{n} \int_k^n \frac{1}{t} dt = \boxed{-\frac{k}{n} \log \frac{k}{n}} \quad \frac{k}{n} = \frac{1}{e} \text{ で}$$

最大値  $\frac{1}{e}$

# 結婚問題 (a.k.a. 秘書問題)

願望1: 全体で見て1位の人と結婚したい

全体の  $1/e$  程度を無条件で見送り,  
その後暫定1位の候補者が現れたときに結婚すれば,  
**確率  $1/e (\approx 0.3679)$  以上**で達成可能 (漸近的に最適)

願望2: 結婚相手の順位の期待値を小さくしたい

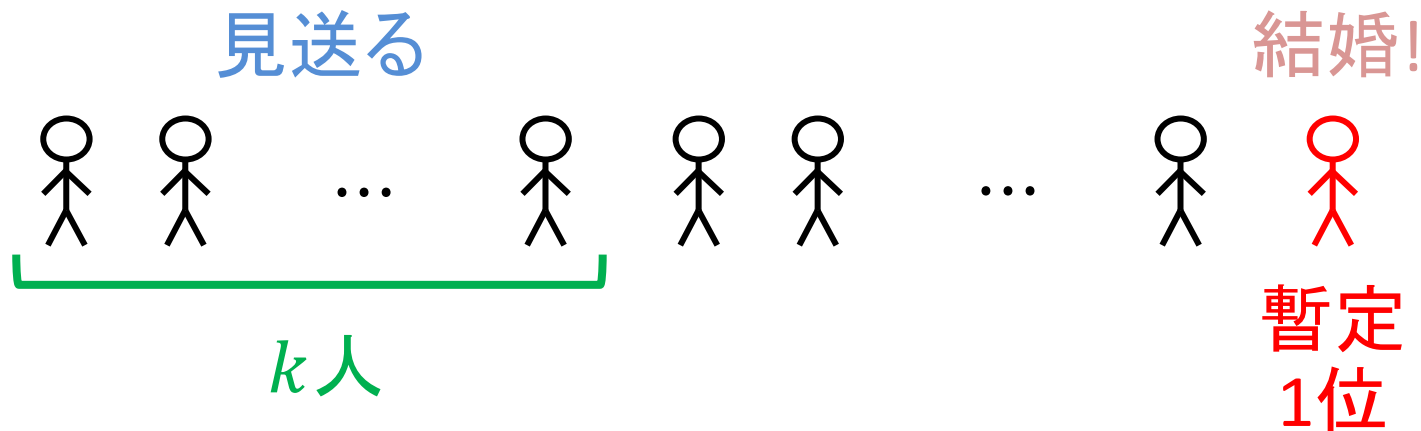
上記の戦略だと  $n/2e$  **以上** (あまり良くない)  
少し工夫すると **3.87 以下**にできる (漸近的に最適)

[Chow et al. 1964]

# 期待順位を小さくしたい場合

先ほどと同じ戦略を取るとどうなるか??

- $k$ 人目まで見送る  $\left(\frac{k}{n} \approx \frac{1}{e}\right)$
- それ以降**相対順位1位**の候補者が現れたら**結婚する**
- $n$ 人目は順位によらず見送らない



# 期待順位を小さくしたい場合

先ほどと同じ戦略を取るとどうなるか??

- $k$ 人目まで見送る  $\left(\frac{k}{n} \approx \frac{1}{e}\right)$
- それ以降**相対順位1位**の候補者が現れたら**結婚する**
- $n$ 人目は順位によらず見送らない

$k$ 人目までに1位の候補者が居た場合, 必ず $n$ 人目と結婚

$$(\text{期待順位}) \geq \frac{k}{n} \cdot \frac{n+2}{2} \approx \frac{n+2}{2e}$$

# 期待順位を小さくしたい場合

- 残り1人になると, 結婚するしかない

$$(\text{期待順位}) = \frac{n + 1}{2}$$

# 期待順位を小さくしたい場合

- 残り1人になると、結婚するしかない

$$(\text{期待順位}) = \frac{n+1}{2}$$

- 最後から2人目が暫定*i*位 ( $1 \leq i \leq n-1$ ) だった場合
  - 絶対順位の期待値は  $\frac{n-i}{n}i + \frac{i}{n}(i+1) = \frac{n+1}{n}i$
  - 見送れば、最後の1人と結婚 (期待順位は  $\frac{n+1}{2}$ )

# 期待順位を小さくしたい場合

- 残り1人になると、結婚するしかない

$$(\text{期待順位}) = \frac{n+1}{2}$$

- 最後から2人目が暫定*i*位 ( $1 \leq i \leq n-1$ ) だった場合

- 絶対順位の期待値は  $\frac{n-i}{n}i + \frac{i}{n}(i+1) = \frac{n+1}{n}i$

- 見送れば、最後の1人と結婚 (期待順位は  $\frac{n+1}{2}$ )

→  $i \leq \frac{n}{2}$  なら結婚, そうでなければ見送る

# 期待順位を小さくしたい場合

- 最後から2人目が暫定*i*位 ( $1 \leq i \leq n - 1$ ) だった場合
    - 絶対順位の期待値は  $\frac{n-i}{n}i + \frac{i}{n}(i+1) = \frac{n+1}{n}i$
    - 見送れば, 最後の1人と結婚 (期待順位は  $\frac{n+1}{2}$ )
- $i \leq \frac{n}{2}$  なら**結婚**, そうでなければ**見送る**

$$(\text{期待順位}) = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^{n-1} \min \left\{ \frac{n+1}{n}i, \frac{n+1}{2} \right\}$$



# 期待順位を小さくしたい場合

- 最後から3人目が暫定*i*位 ( $1 \leq i \leq n - 2$ ) だった場合
  - 絶対順位の期待値  $pi + q(i + 1) + r(i + 2)$  は **解析的に計算可能** ( $p + q + r = 1$ )
  - 見送れば, **前述の期待順位を達成可能**

繰り返し遡っていくと...

$$\text{(達成可能な期待順位)} \leq \prod_{j=1}^{\infty} \left( \frac{j+2}{j} \right)^{\frac{1}{j+1}} \approx 3.8695 \dots$$

[Chow et al. 1964]

# 期待順位を小さくしたい場合

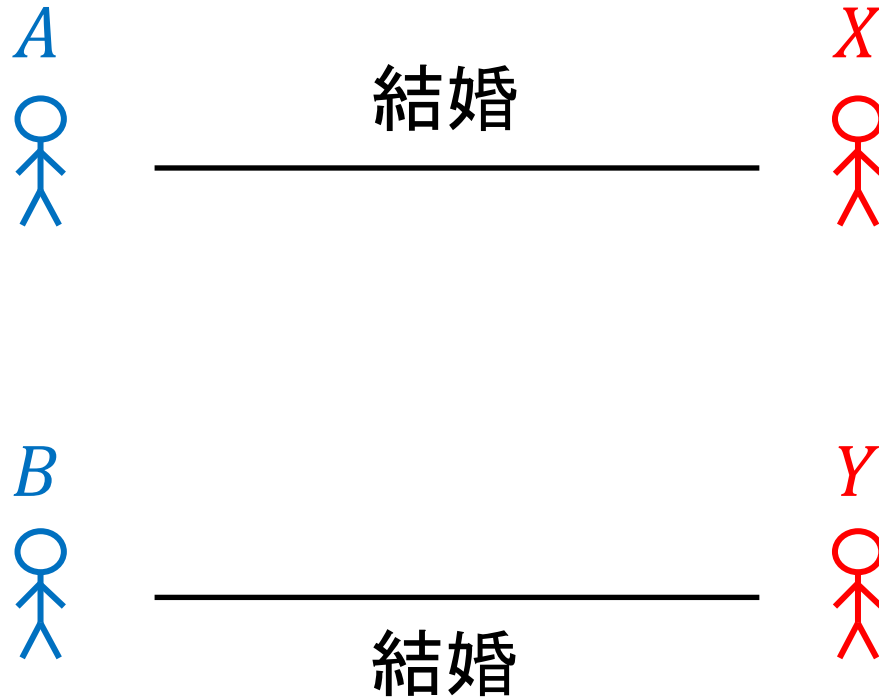
例  $n = 20$  の場合の最適戦略

- 5人目までは無条件で見送る
- 6～10人目は**暫定1位**なら結婚する
- 11～13人目は**暫定2位以内**なら結婚する
- 14, 15人目は**暫定3位以内**なら結婚する
- 16, 17, 18, 19人目は,  
それぞれ**暫定4, 5, 7, 10位以内**なら結婚する

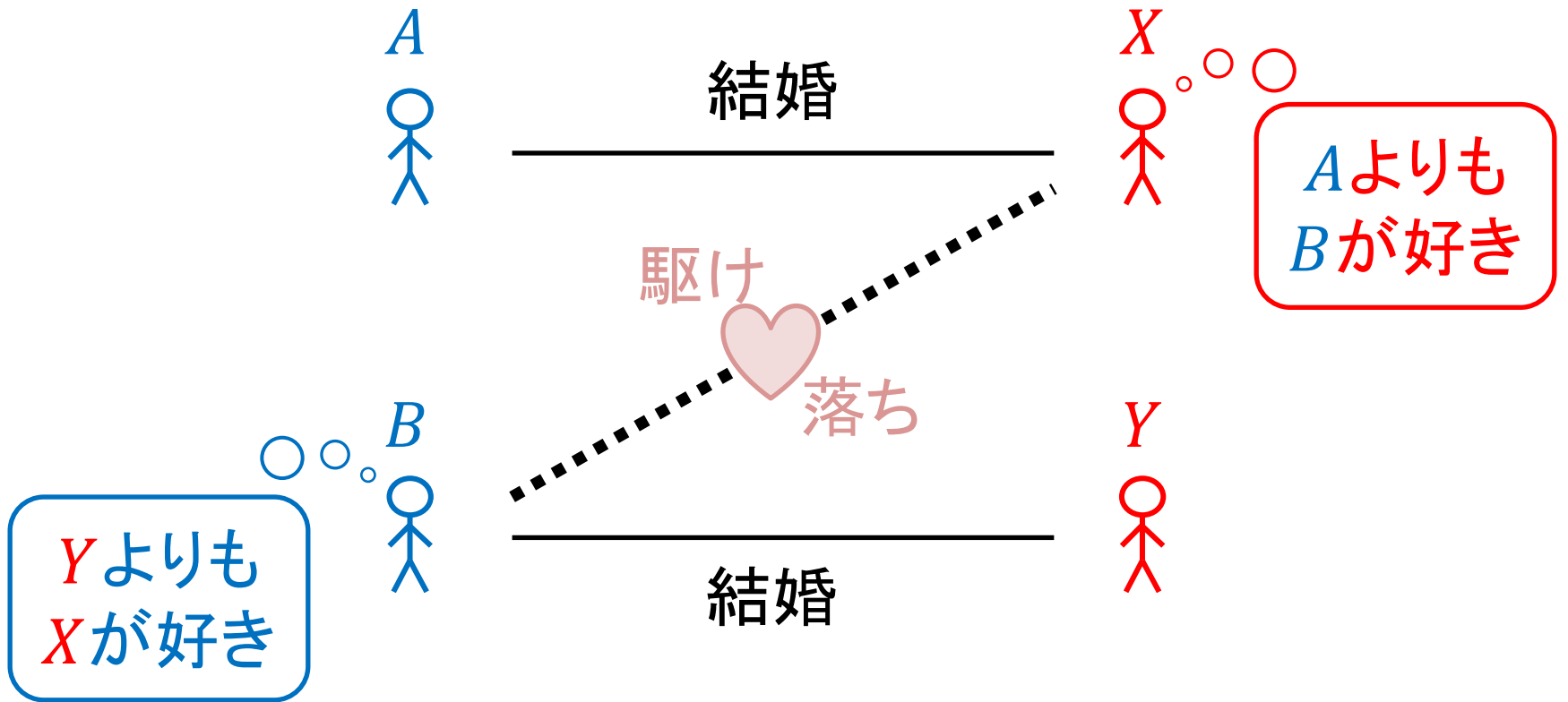
# 全体の構成

- 個人が幸せになるためには
  - 1番好きな人と結婚できる確率を上げる
  - 結婚相手の順位の期待値を下げる
- 安定な結婚とは
  - 駆け落ちが起こらないカップリング
  - 絶望の定理 (田舎の病院定理)
  - 嘘つきは得をするか

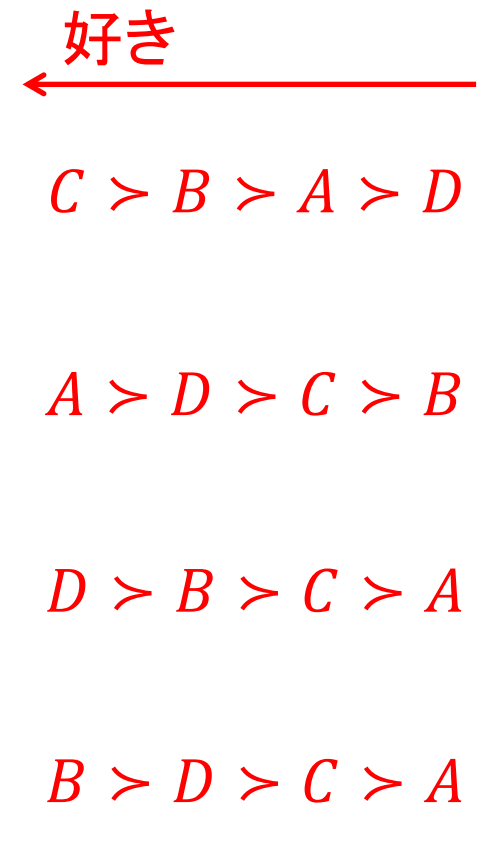
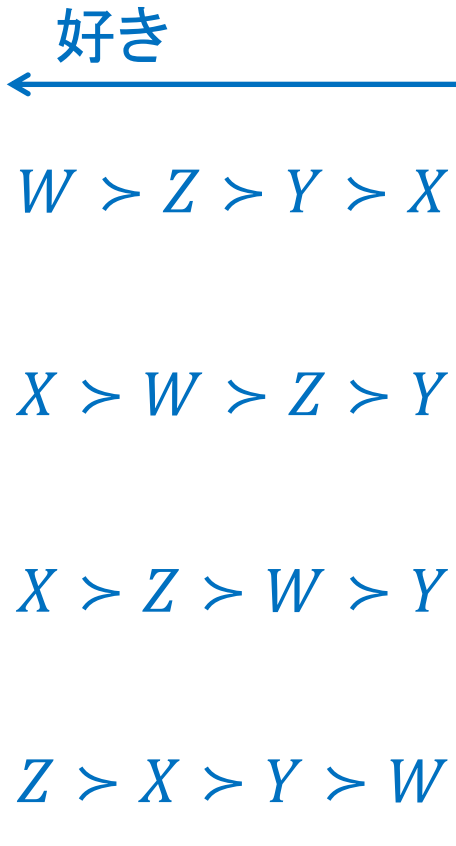
# 駆け落ち



# 駆け落ち

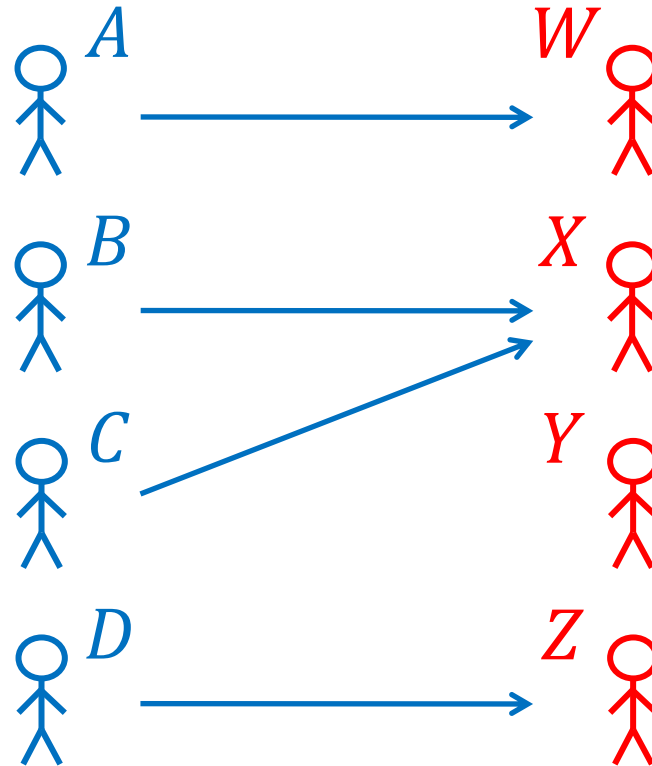
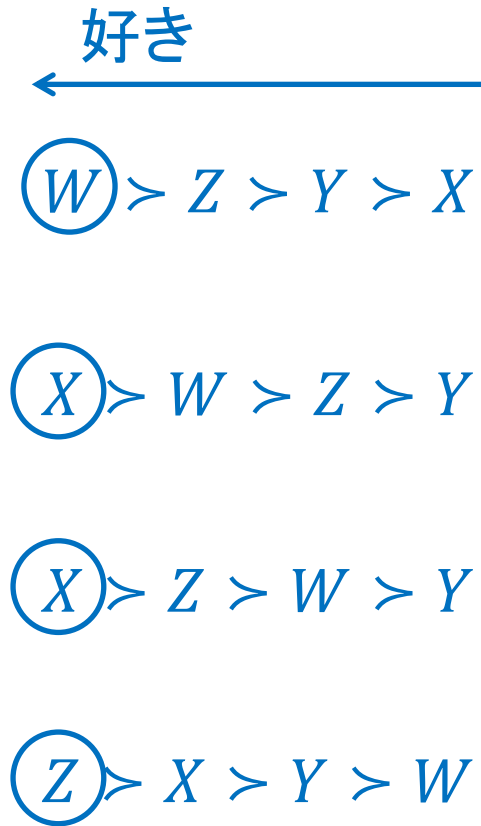


# 安定結婚問題

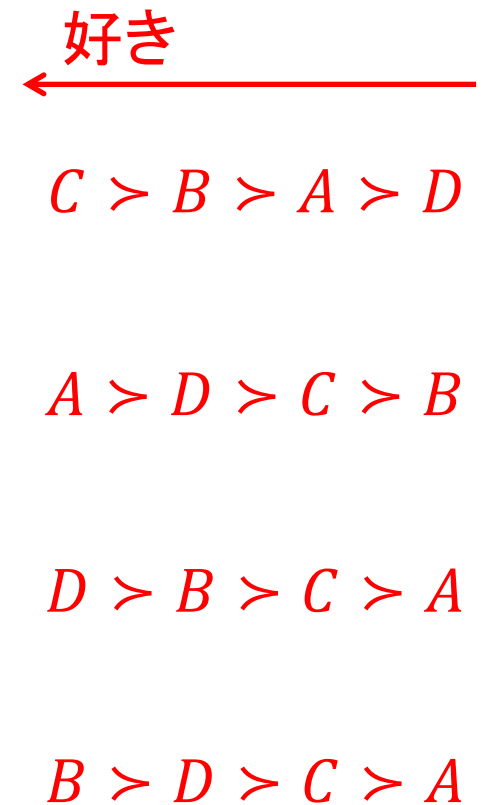


駆け落ちしないようにカップリングしたい

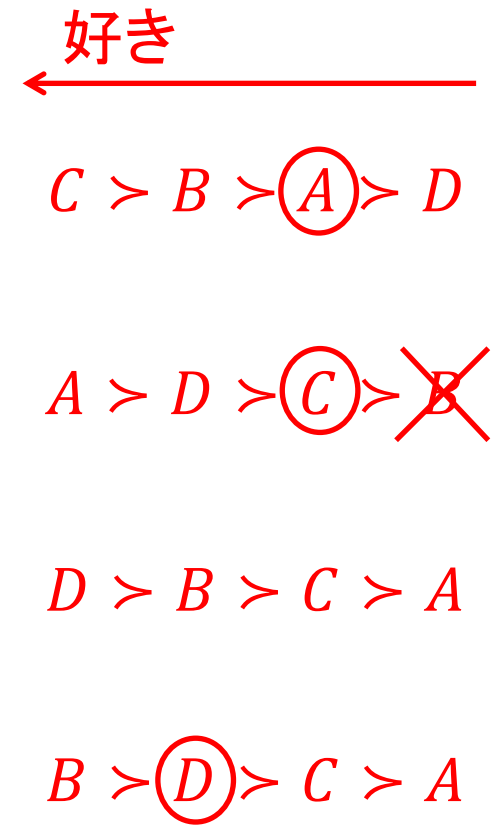
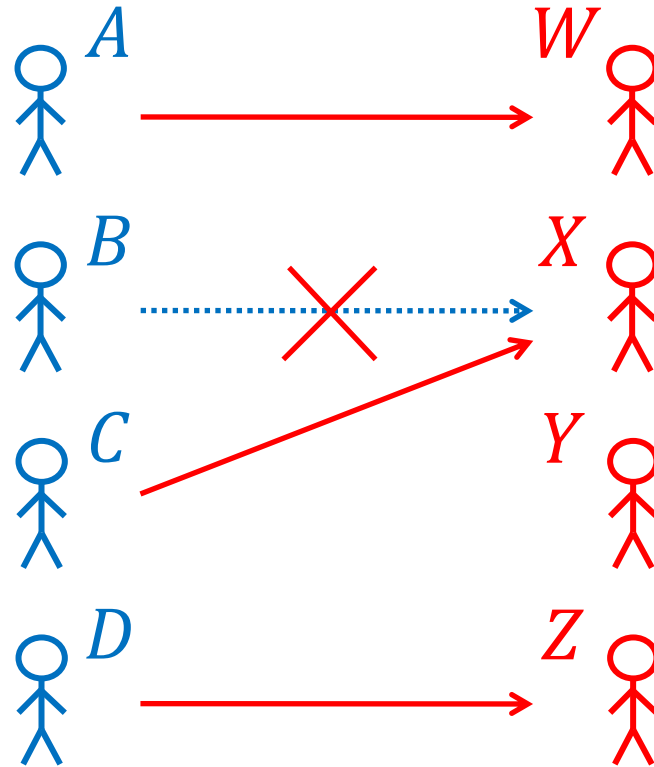
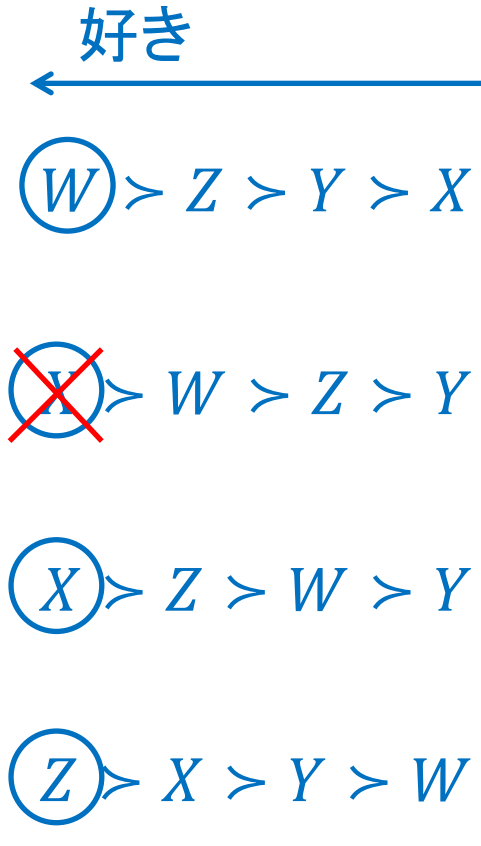
# 安定結婚問題



プロポーズ



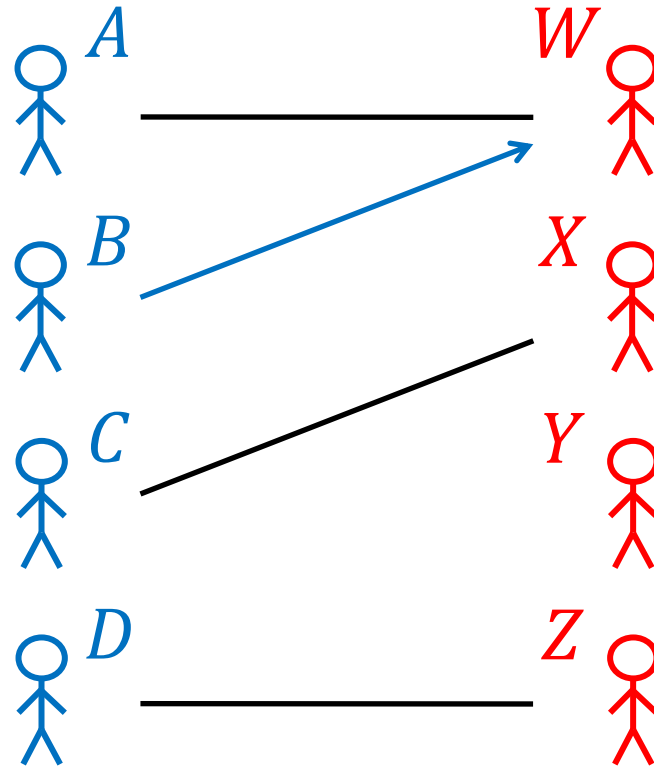
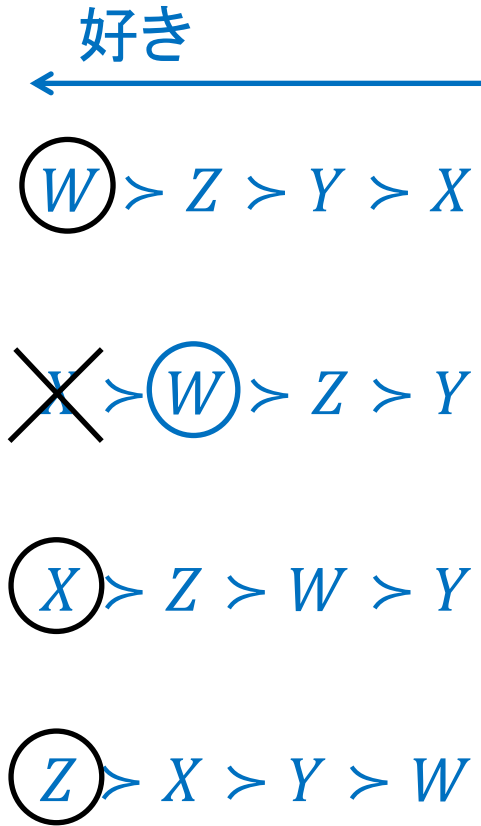
# 安定結婚問題



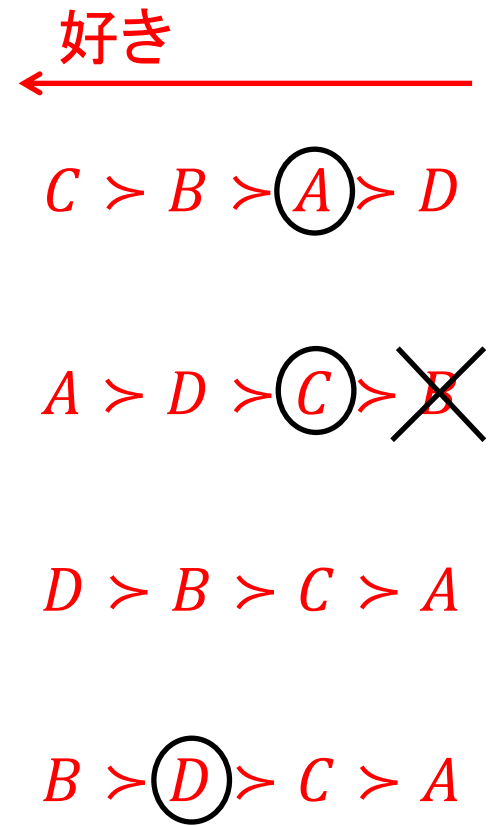
仮受諾・拒否



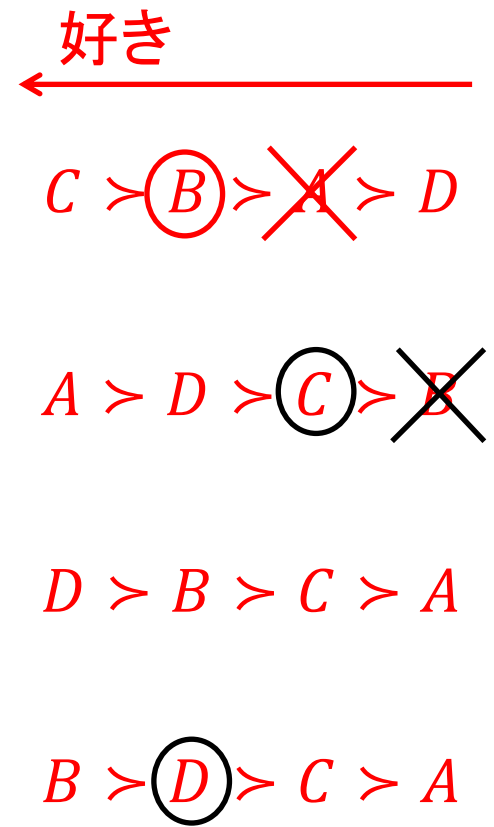
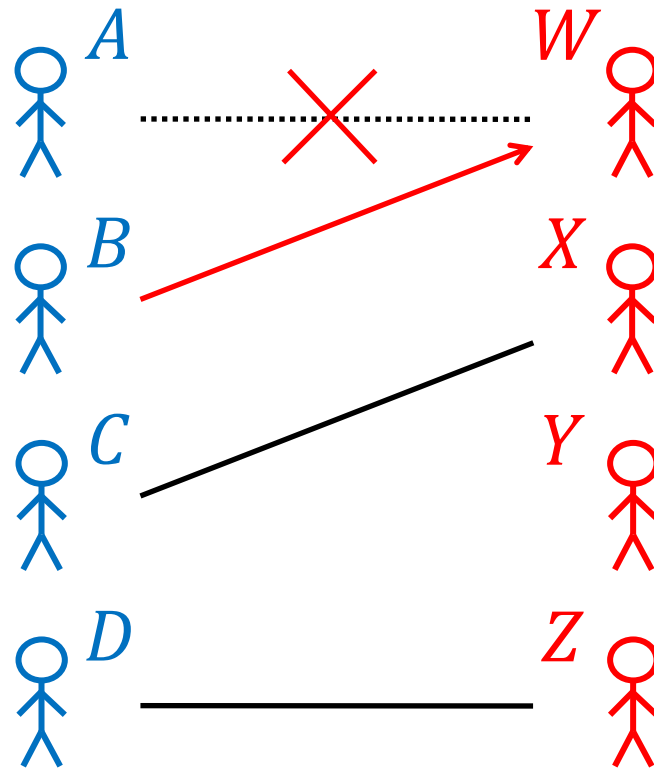
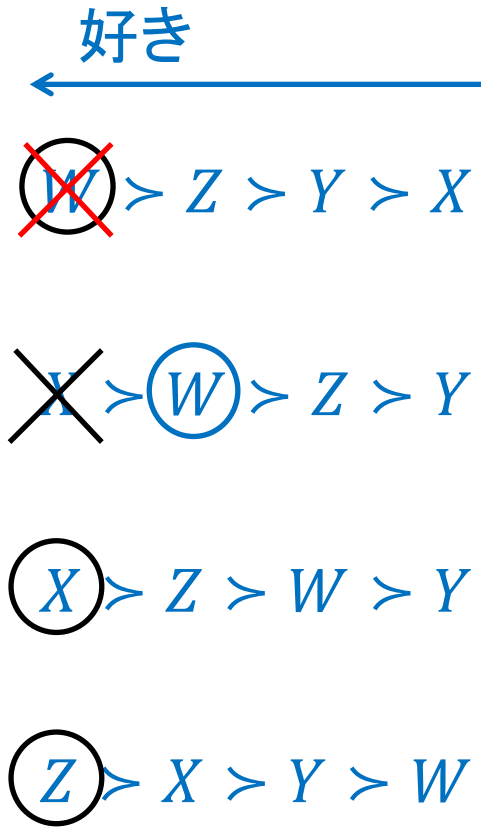
# 安定結婚問題



プロポーズ

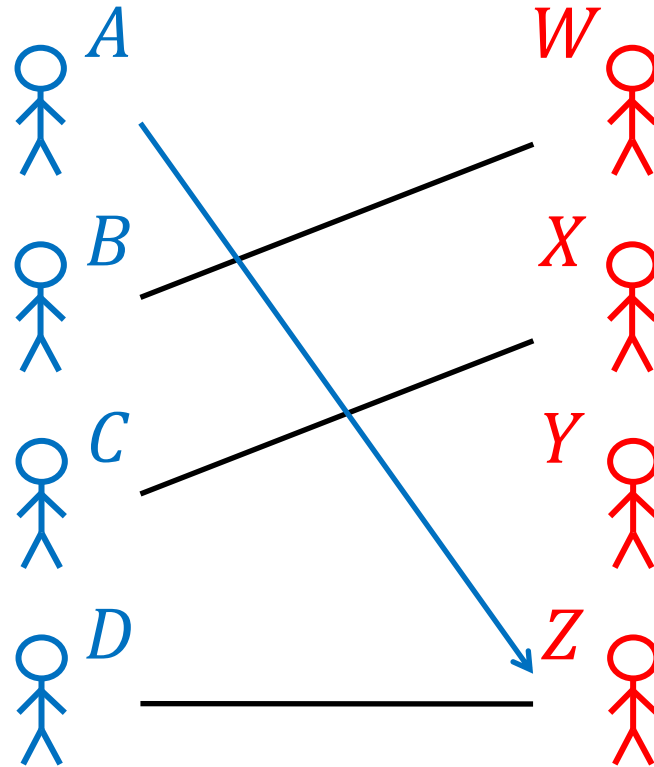
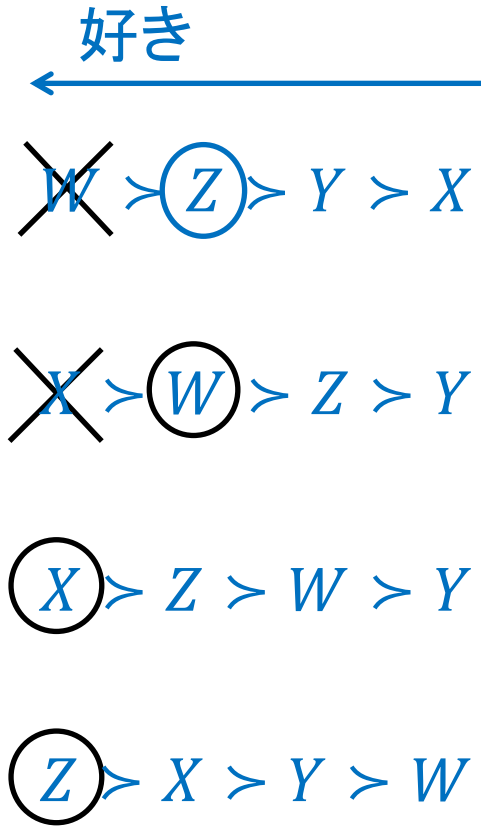


# 安定結婚問題

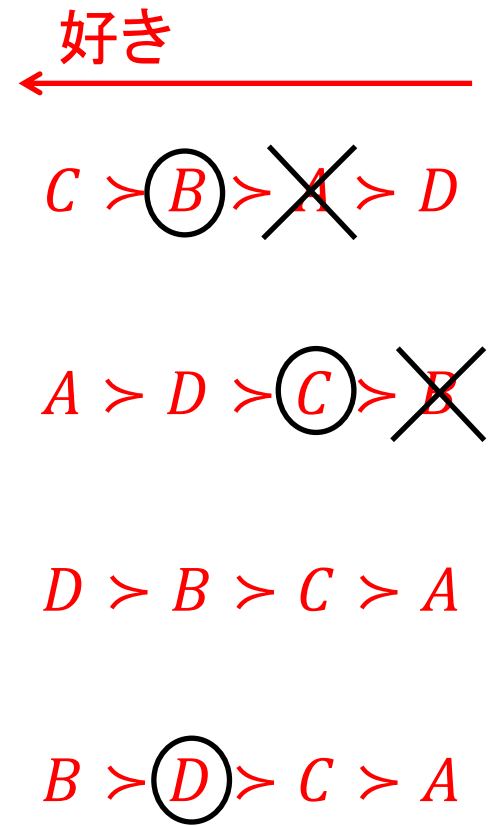


仮受諾・拒否

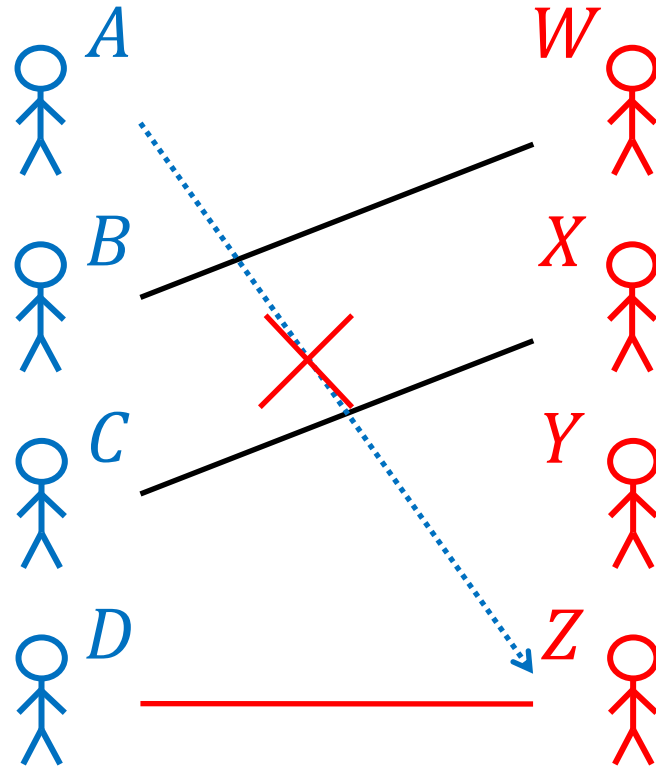
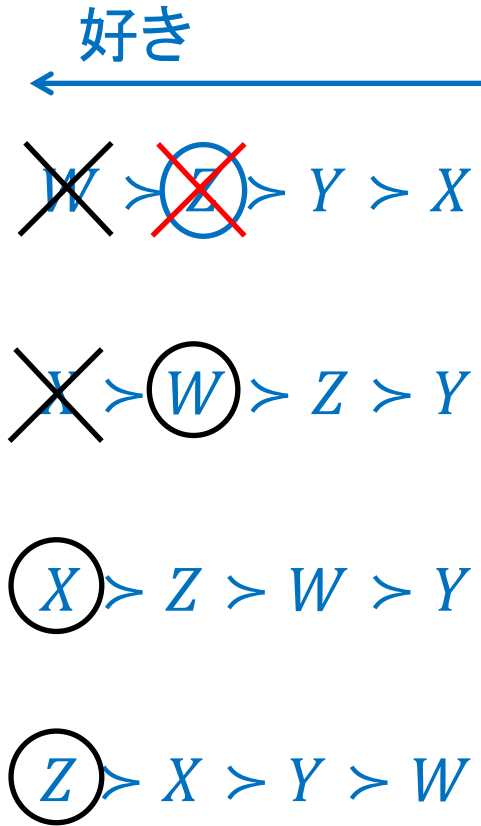
# 安定結婚問題



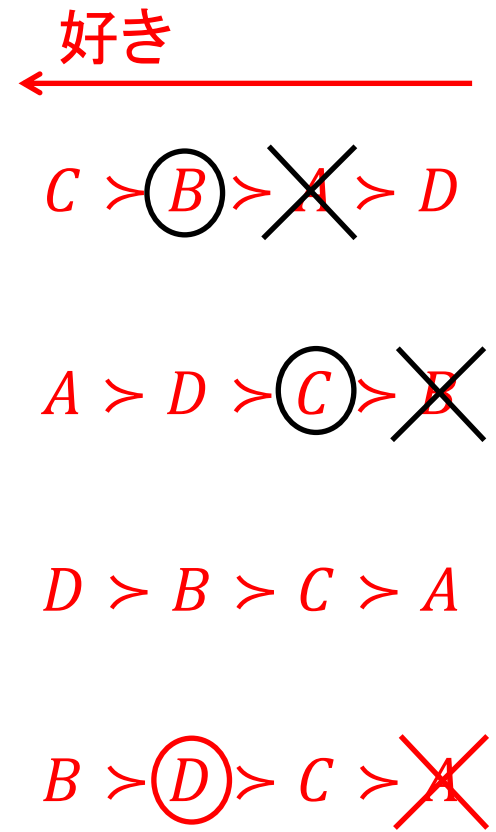
プロポーズ



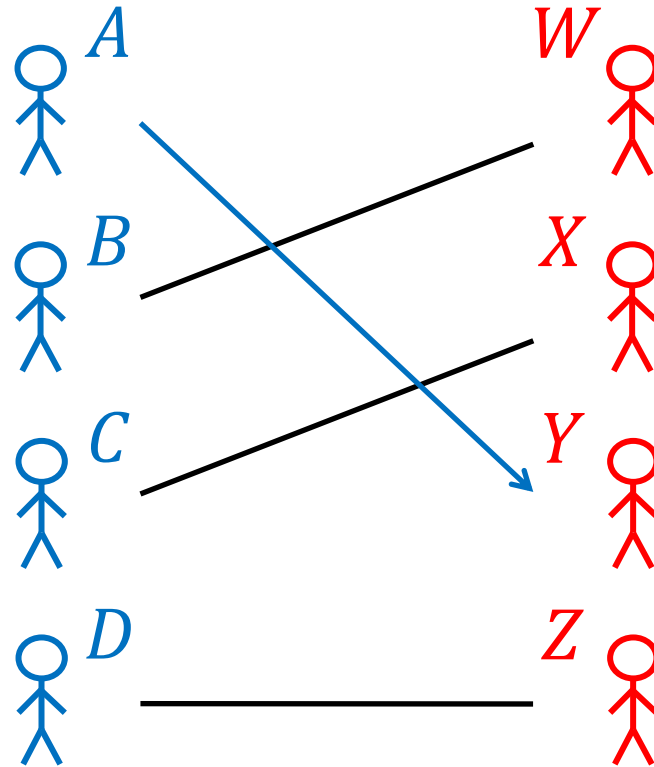
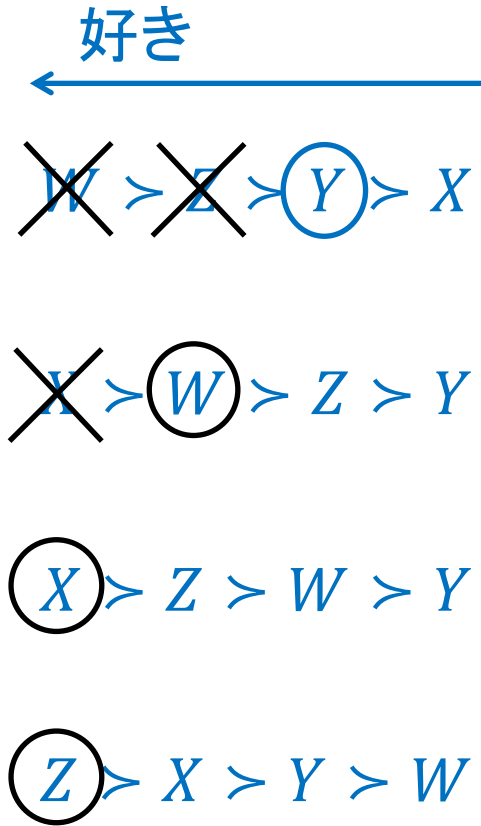
# 安定結婚問題



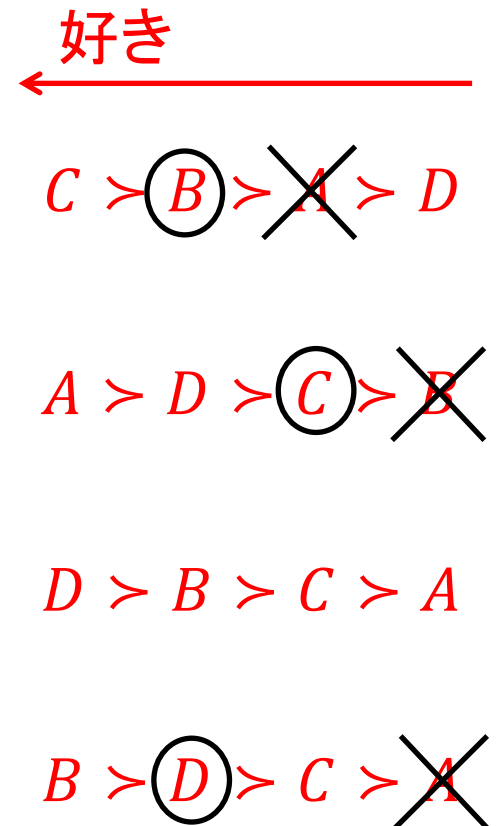
仮受諾・拒否



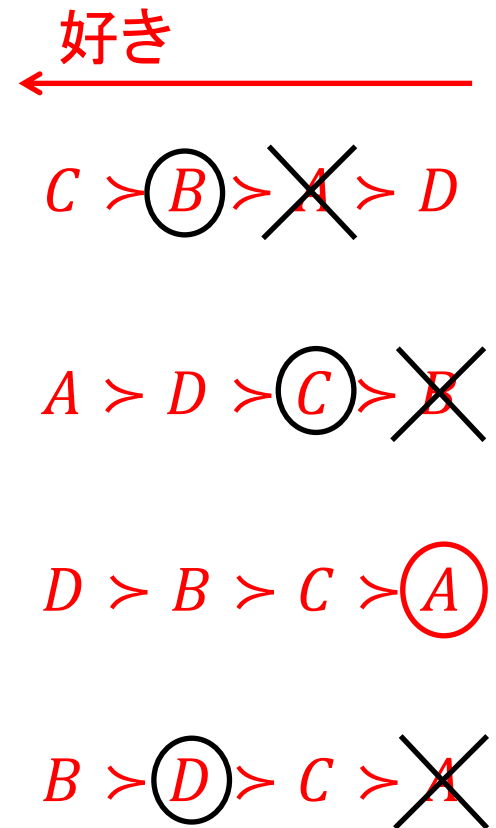
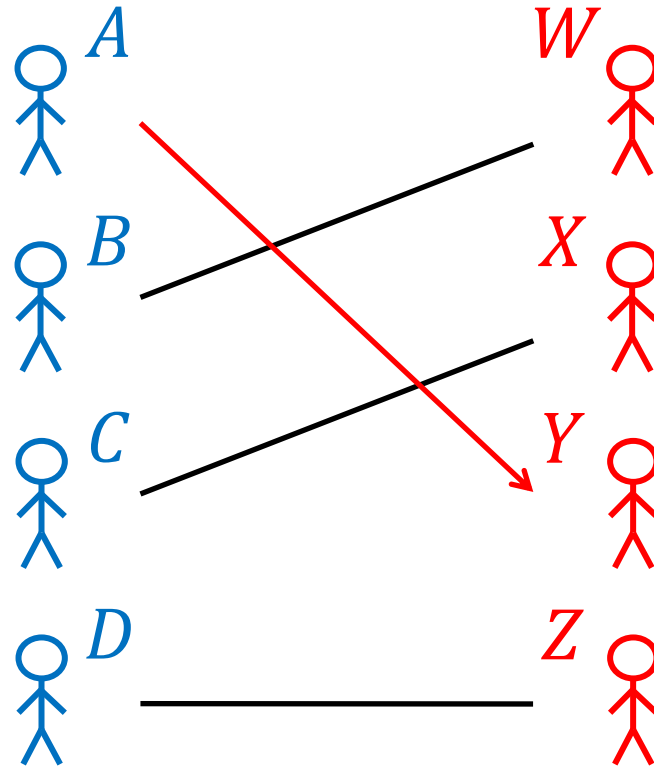
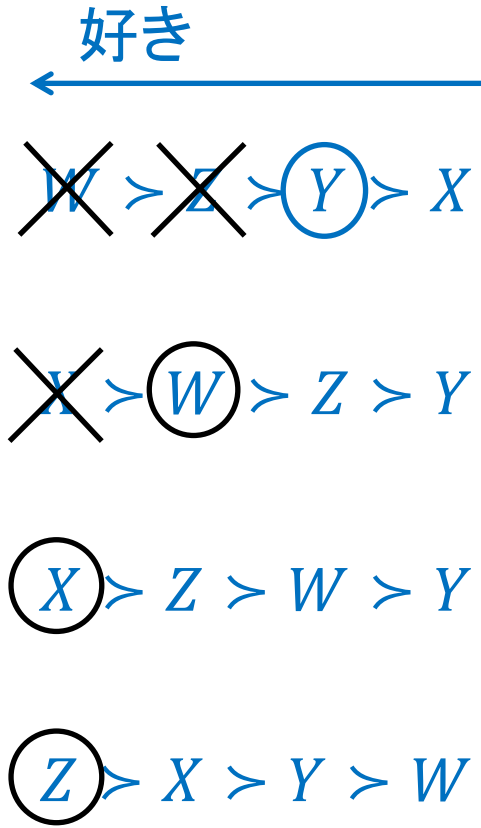
# 安定結婚問題



プロポーズ

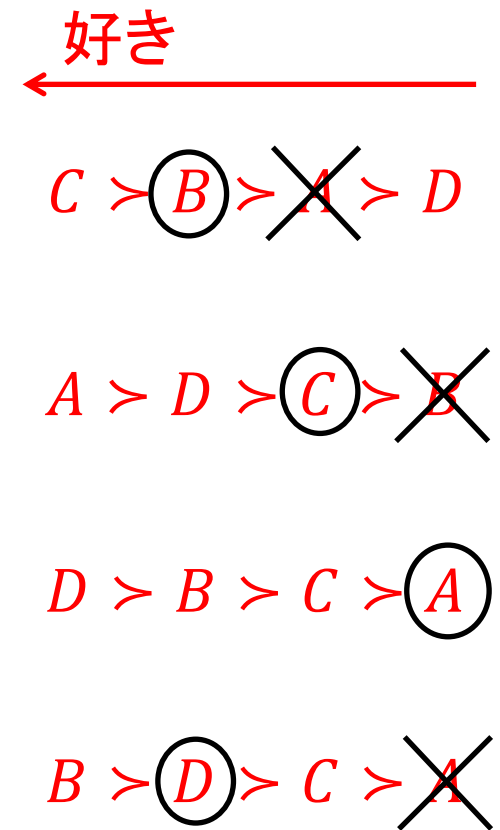
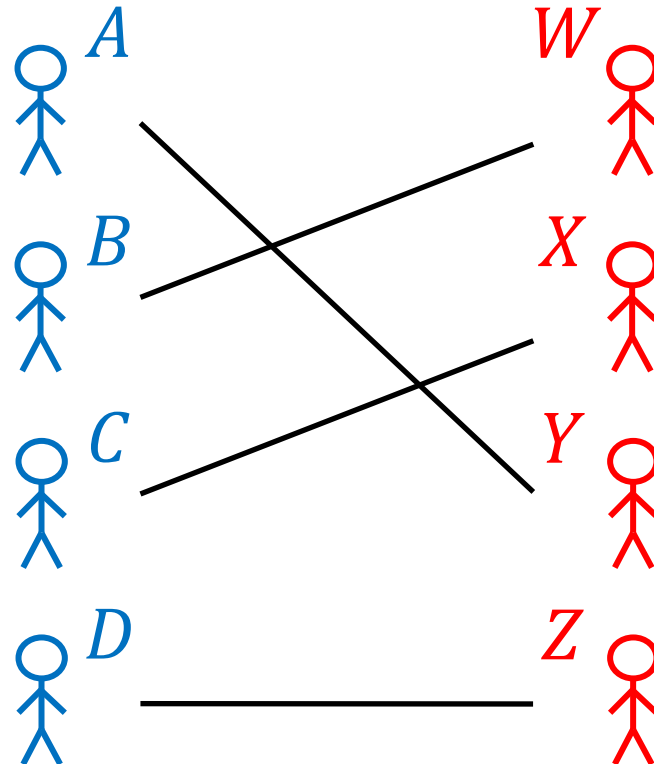
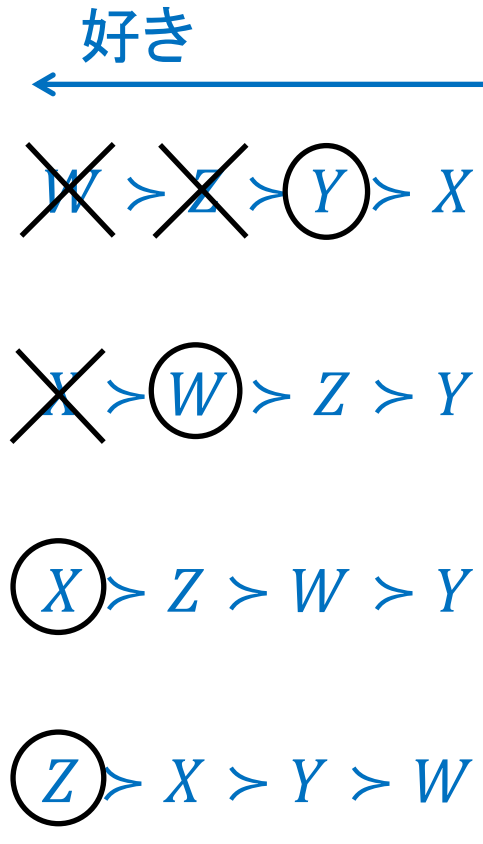


# 安定結婚問題



仮受諾・拒否

# 安定結婚問題



駆け落ちしないカップリング (安定結婚) になっている

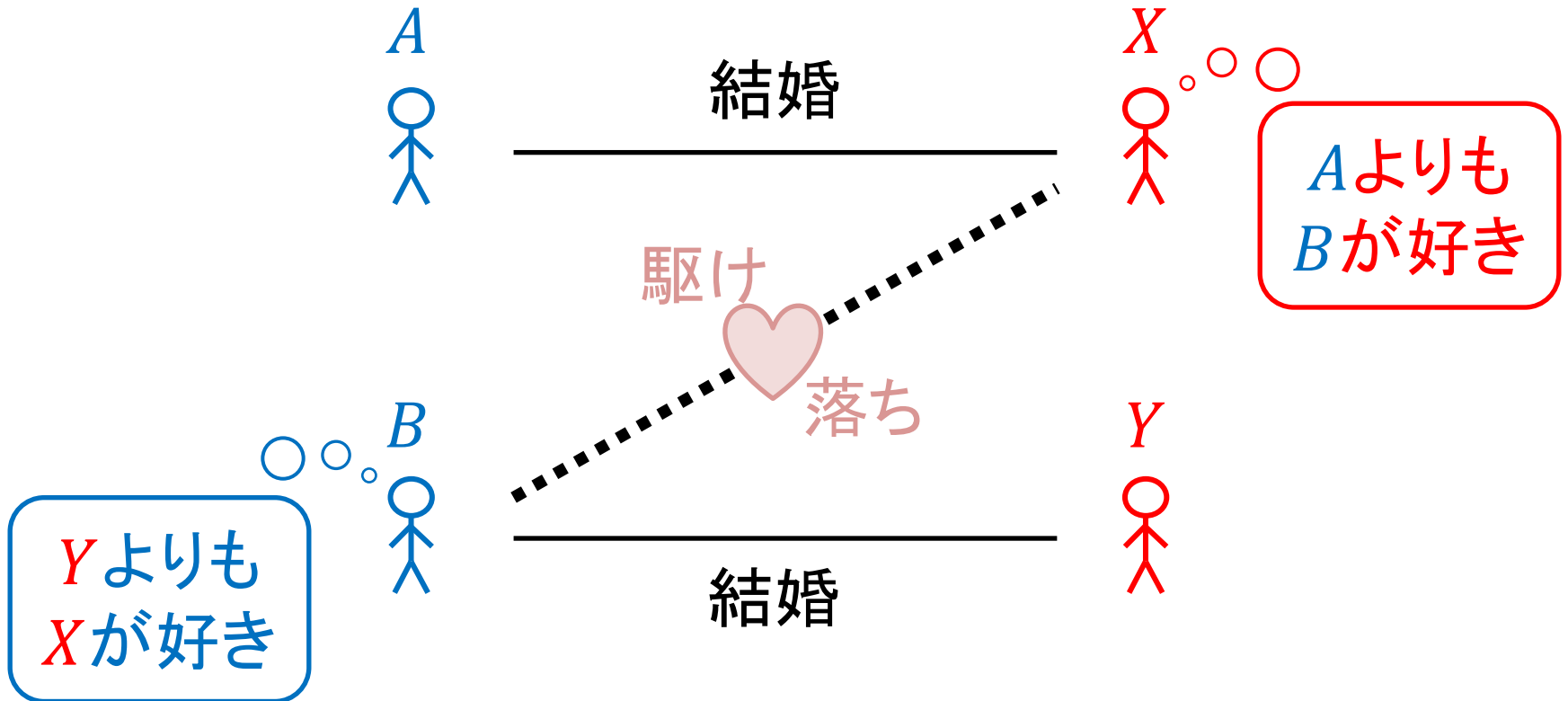
[Gale-Shapley 1962]

# Gale-Shapleyアルゴリズム

- 各男性は同じ女性に複数回プロポーズしない  
→ 高々 (男性数) × (女性数) 回で終了する
- 必ず**安定結婚**を見つける  
→ **安定結婚**の存在を保証



# 安定性の証明



$B$ は $Y$ より先に $X$ に  
プロポーズしているはず

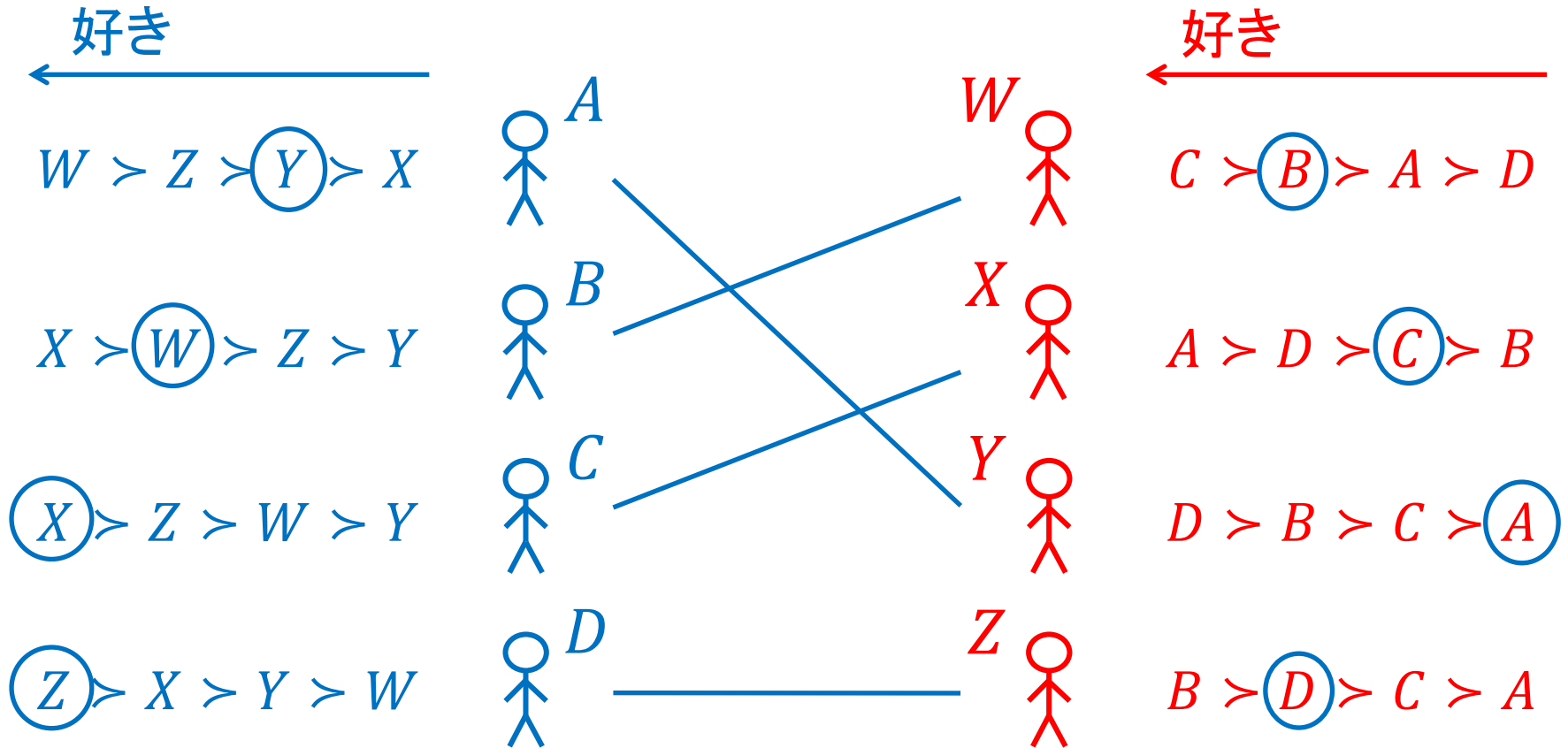


$X$ は $A$ より好きな $B$ を  
拒絶しないはず

# Gale-Shapleyアルゴリズム

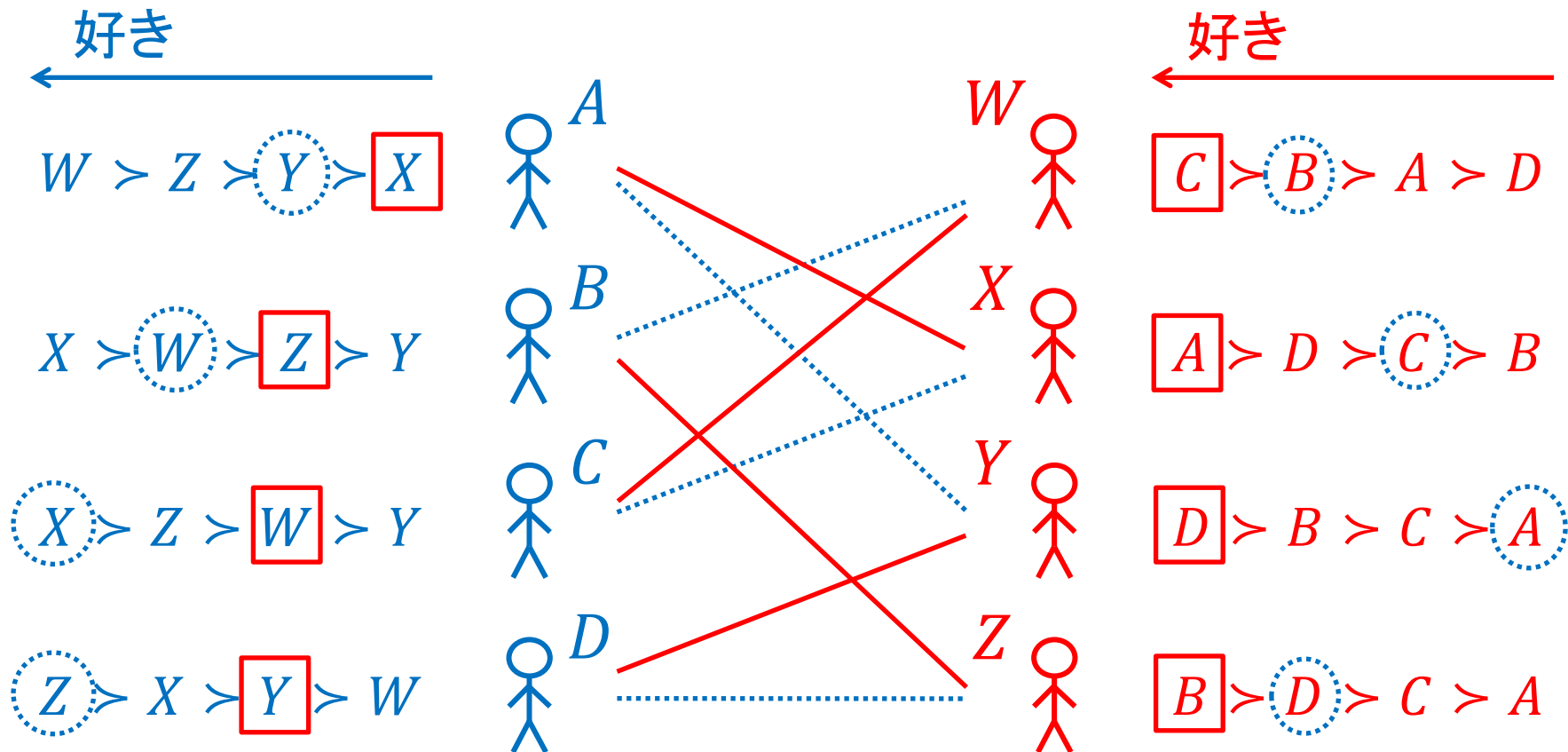
- 各男性は同じ女性に複数回プロポーズしない  
→ 高々 (男性数) × (女性数) 回で終了する
- 必ず**安定結婚**を見つける  
→ **安定結婚**の存在を保証
- 各男性・女性はそれぞれ, **安定結婚**で結ばれうる中で**最良の女性**・**最悪の男性**とカップリングされている

# プロポーズ側の優位性



男性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚

# プロポーズ側の優位性



女性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚

# Gale-Shapleyアルゴリズム

- 各男性は同じ女性に複数回プロポーズしない  
→ 高々 (男性数) × (女性数) 回で終了する
- 必ず**安定結婚**を見つける  
→ **安定結婚**の存在を保証
- 各男性・女性はそれぞれ, **安定結婚**で結ばれうる中で**最良の女性**・**最悪の男性**とカップリングされている
- 人数が異なる場合, 選好リストが不完全な場合,  
一夫多妻制・多夫多妻制の場合にも上記が成り立つ

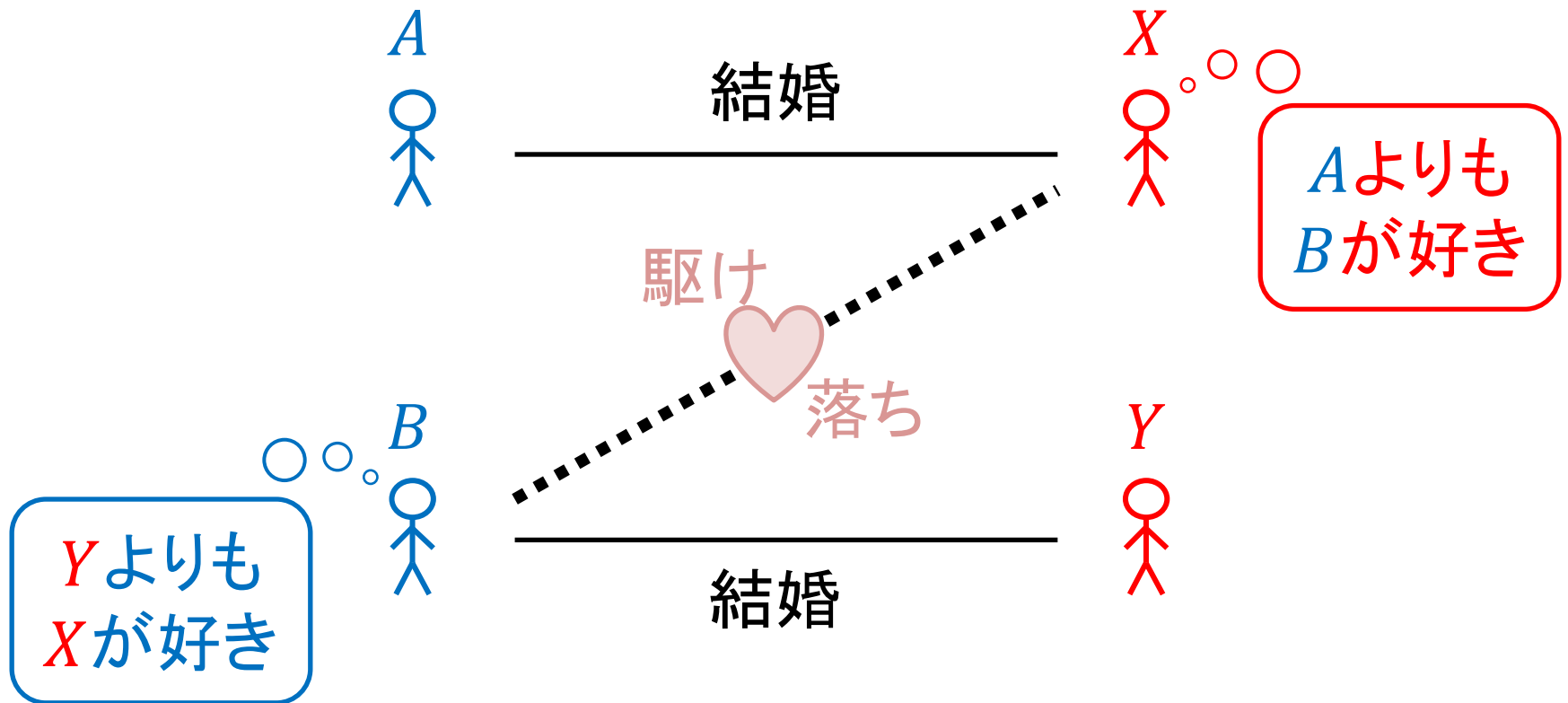
# 全体の構成

- 個人が幸せになるためには
  - 1番好きな人と結婚できる確率を上げる
  - 結婚相手の順位の期待値を下げる
- **安定な結婚とは**
  - 駆け落ちが起こらないカップリング
  - **絶望の定理 (田舎の病院定理)**
  - 嘘つきは得をするか

# Gale-Shapleyアルゴリズム (再掲)

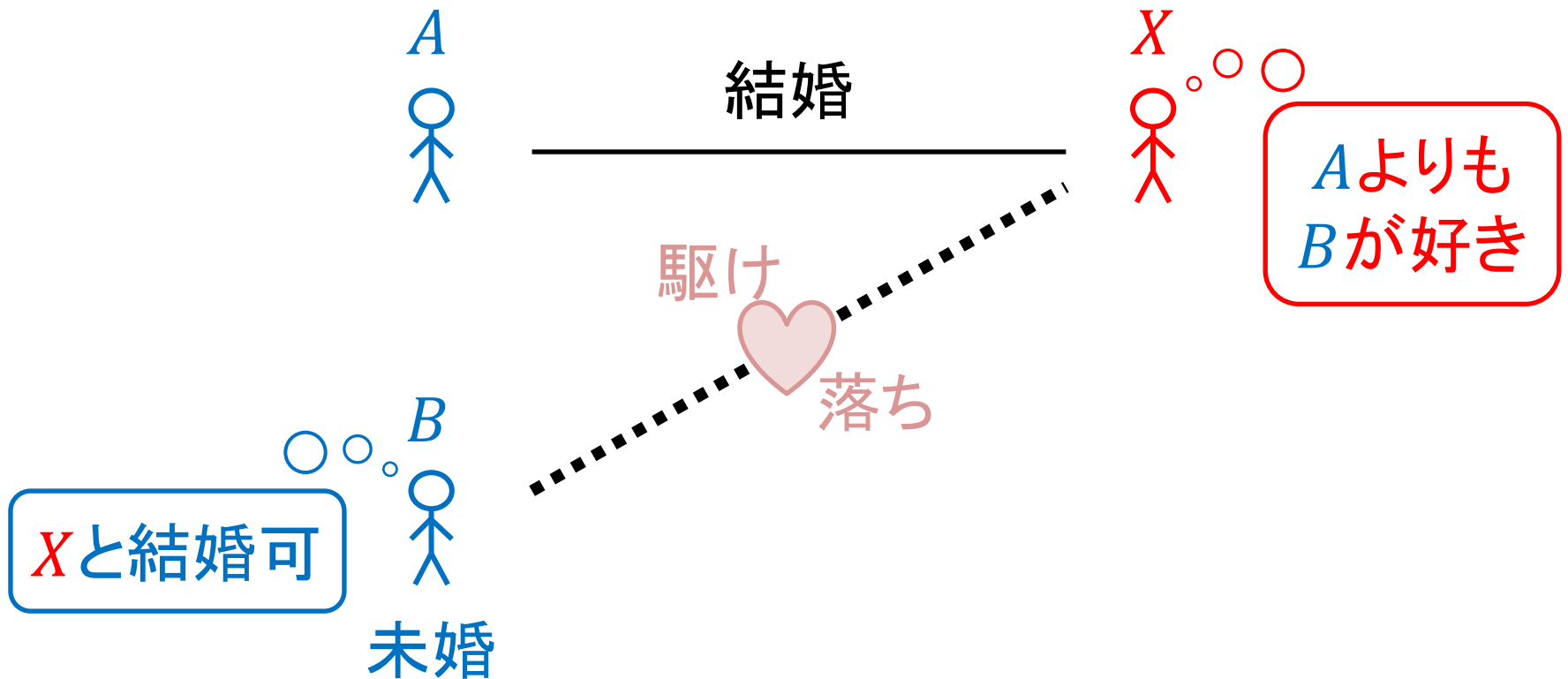
- 各男性は同じ女性に複数回プロポーズしない  
→ 高々 (男性数) × (女性数) 回で終了する
- 必ず**安定結婚**を見つける  
→ **安定結婚**の存在を保証
- 各男性・女性はそれぞれ, **安定結婚**で結ばれうる中で**最良の女性**・**最悪の男性**とカップリングされている
- 人数が異なる場合, 選好リストが不完全な場合, 一夫多妻制・多夫多妻制の場合にも上記が成り立つ

# 安定性 (駆け落ち) の定義の拡張

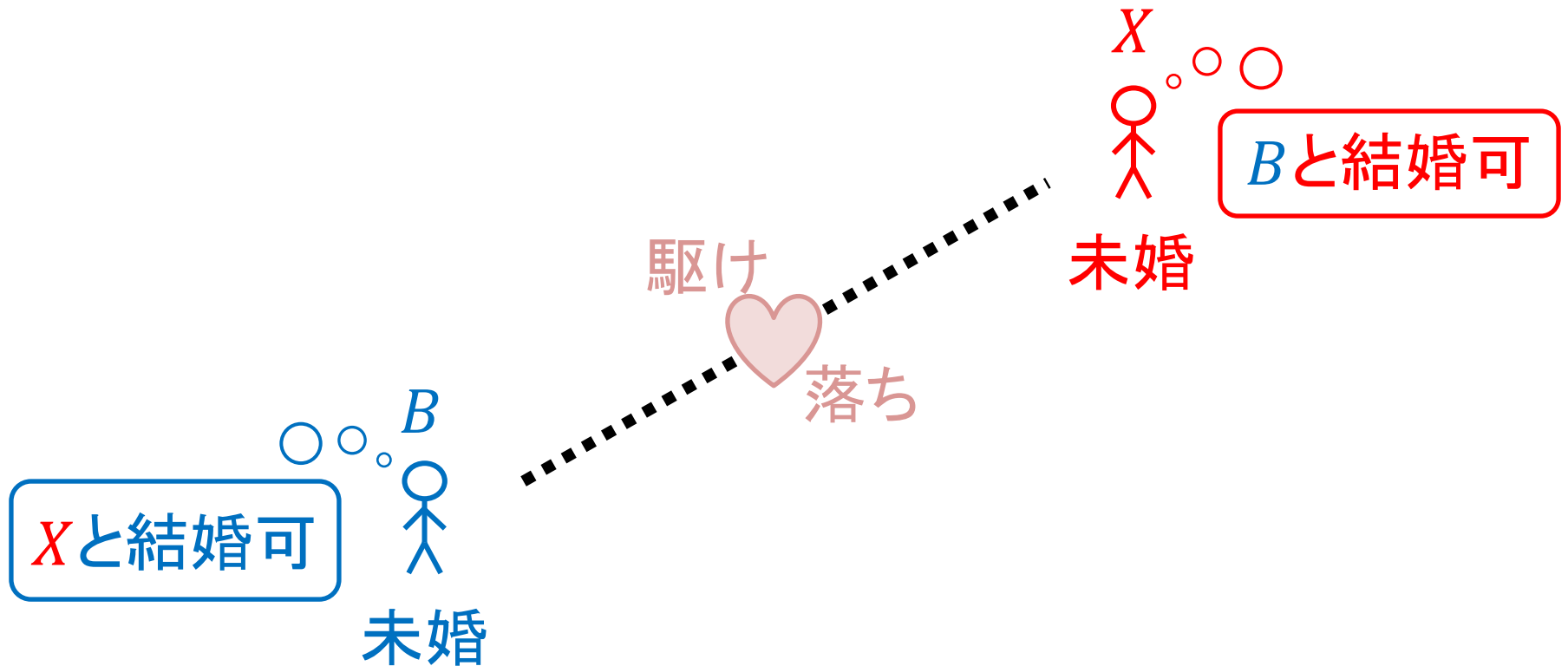




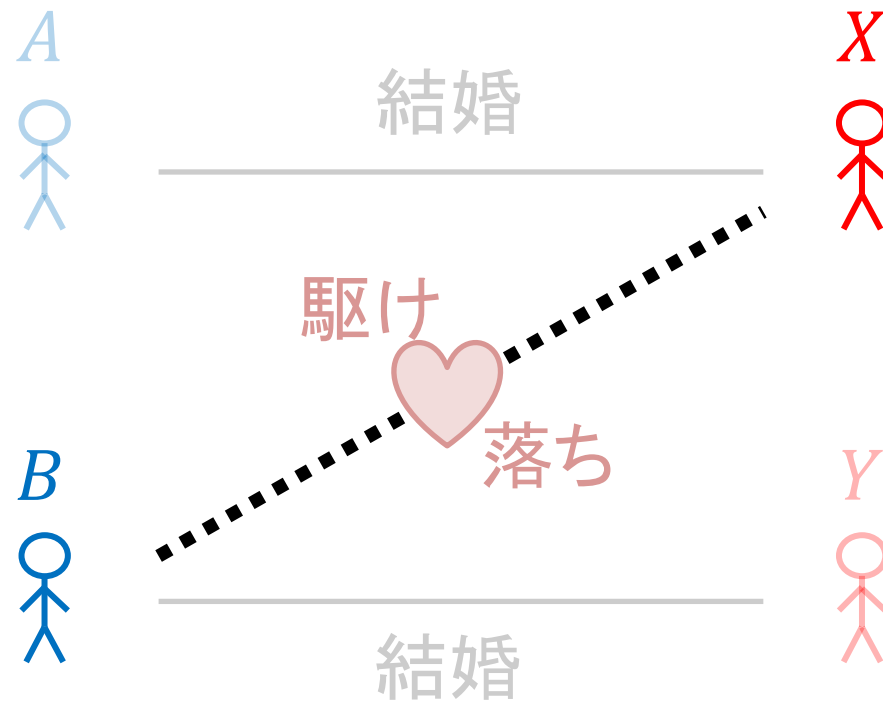
# 安定性 (駆け落ち) の定義の拡張



# 安定性 (駆け落ち) の定義の拡張



# 安定性 (駆け落ち) の定義の拡張

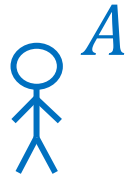


安定  $\stackrel{\text{def}}{\iff}$  どのタイプの駆け落ちも起こらない

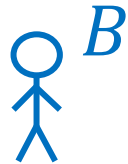
# 人数が異なる場合

好き  
←

$Z > Y > X$



$X > Y > Z$



$X > Z > Y$

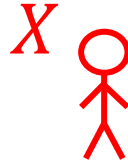


$Z > Y > X$



好き  
←

$A > D > C > B$

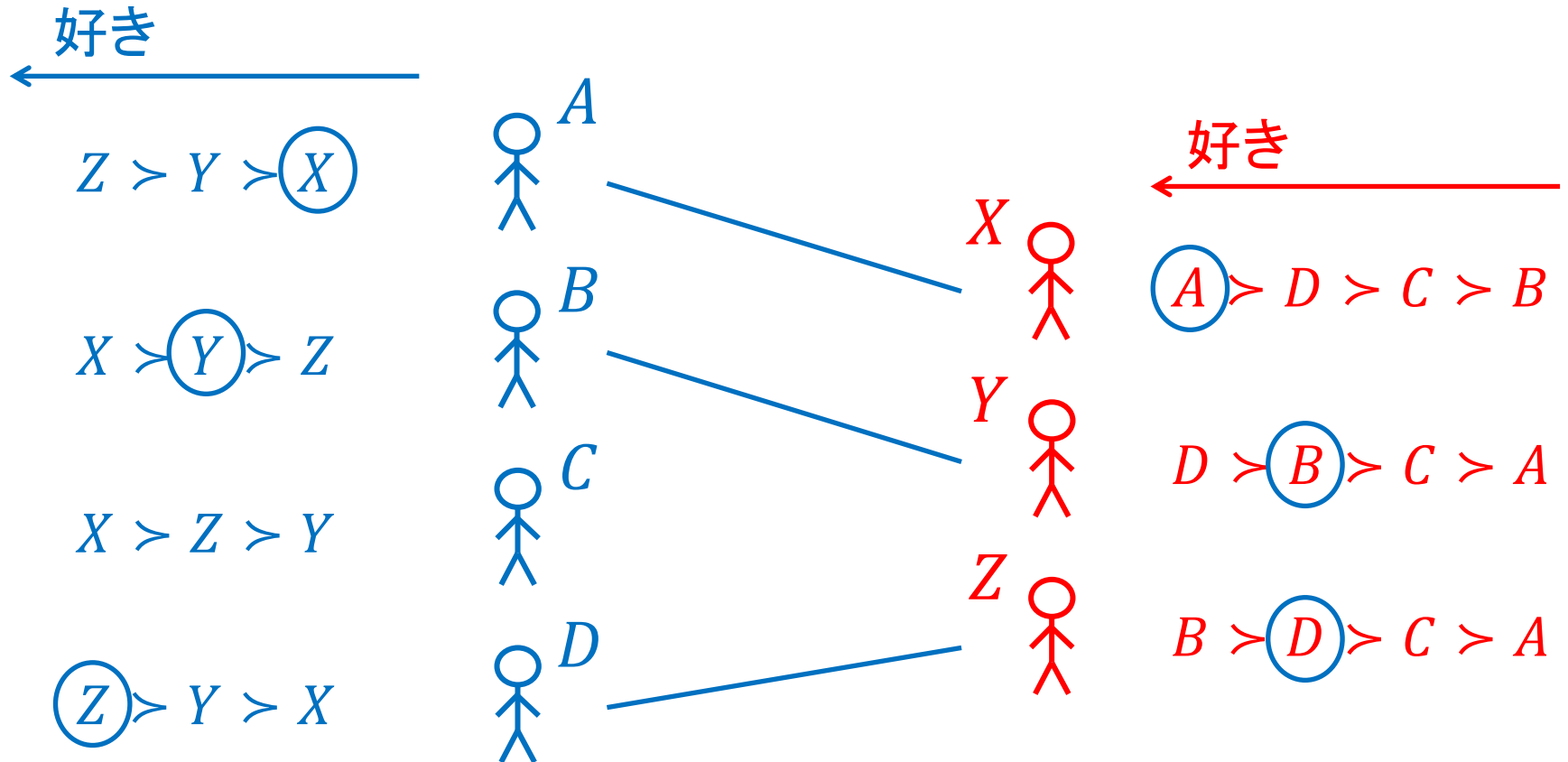


$D > B > C > A$



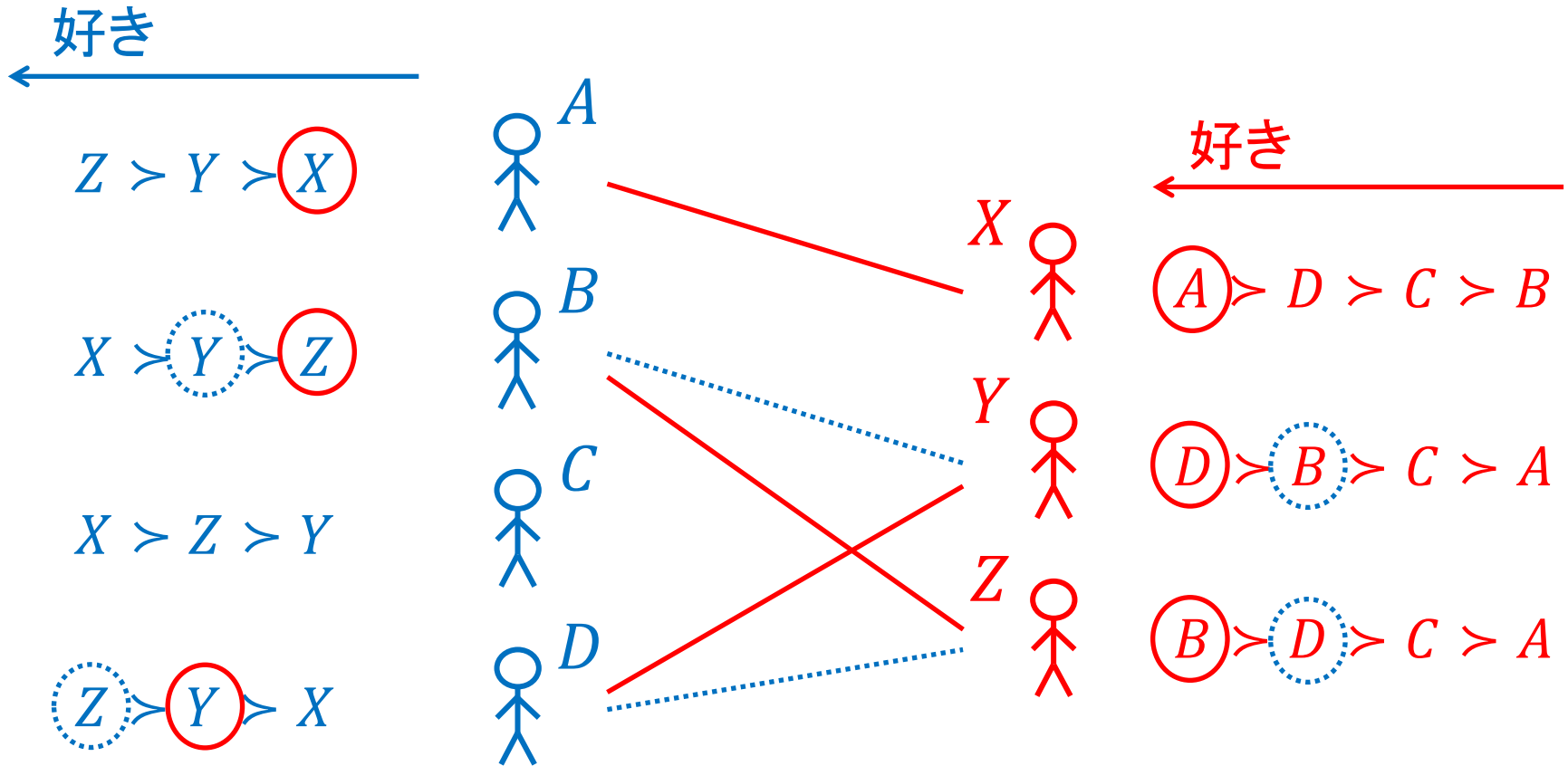
$B > D > C > A$

# 人数が異なる場合



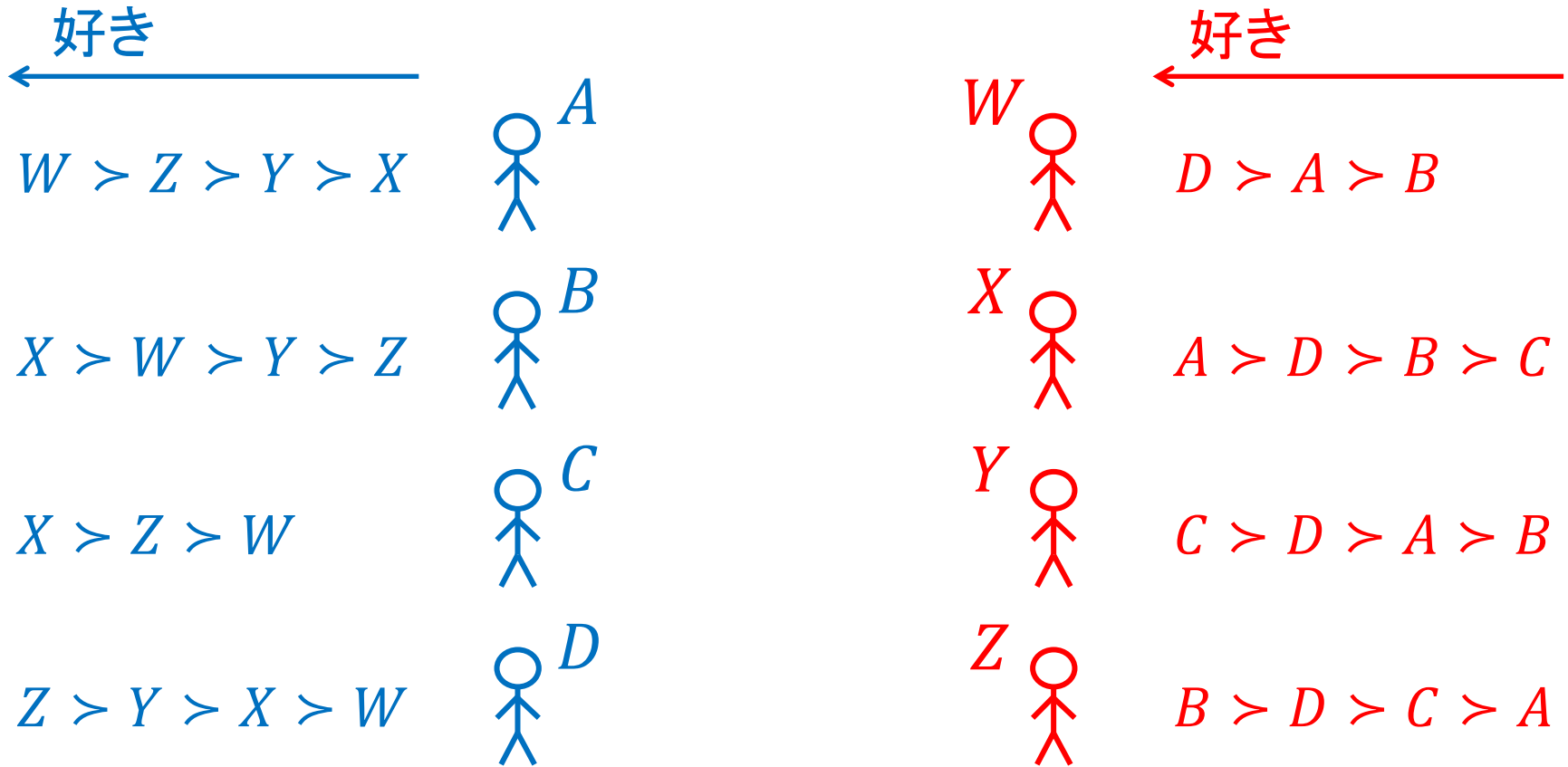
男性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚

# 人数が異なる場合

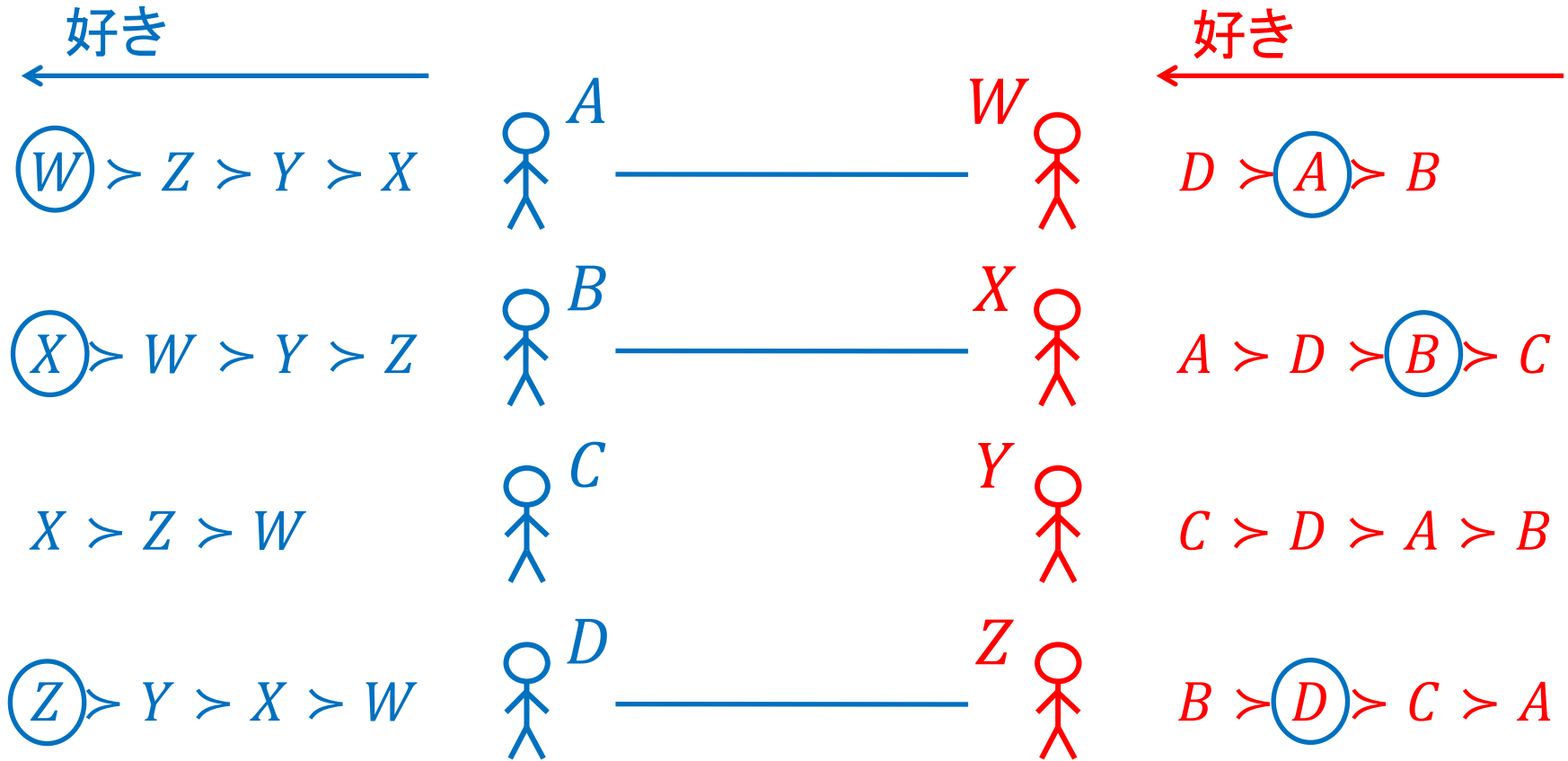


女性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚

# 選好リストが不完全な場合



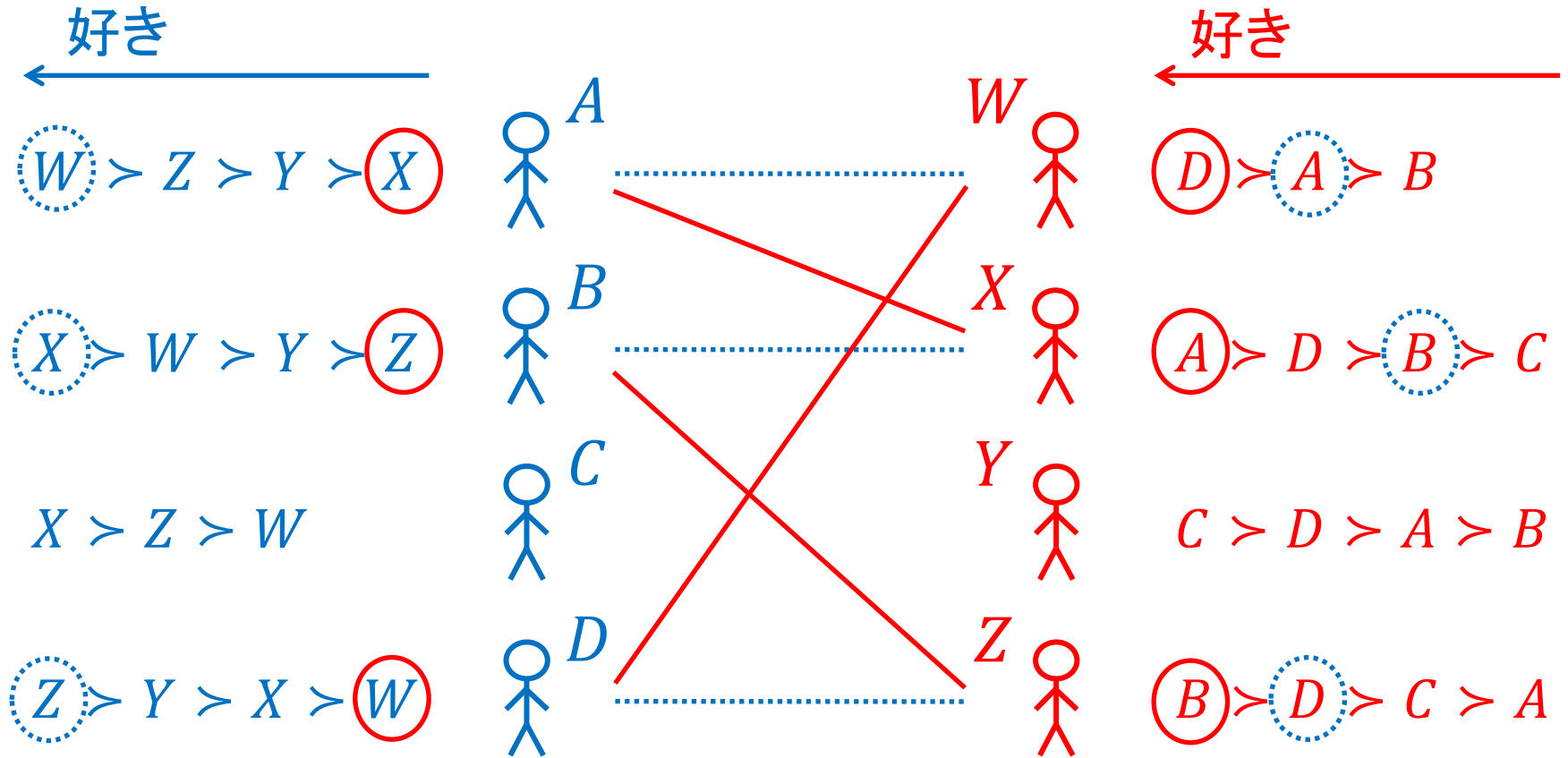
# 選好リストが不完全な場合



男性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚



# 選好リストが不完全な場合



女性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚

# 絶望の定理

ある安定結婚で誰とも結ばれない人は  
任意の安定結婚で誰とも結ばれない

# 絶望の定理の証明

2つの安定結婚において、一方で既婚、他方で未婚であるような人Aが存在したとする



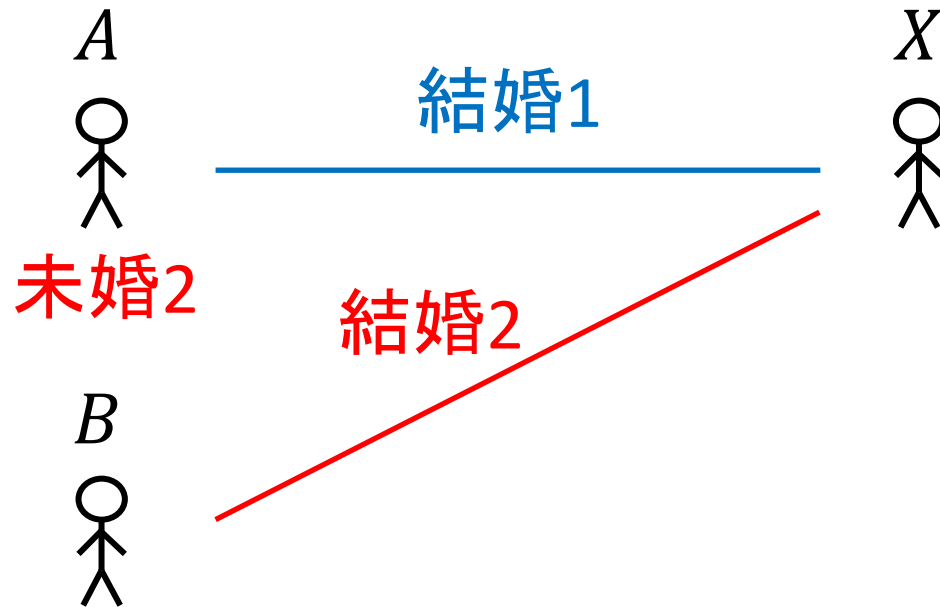
# 絶望の定理の証明

2つの安定結婚において、一方で既婚、他方で未婚であるような人Aが存在したとする



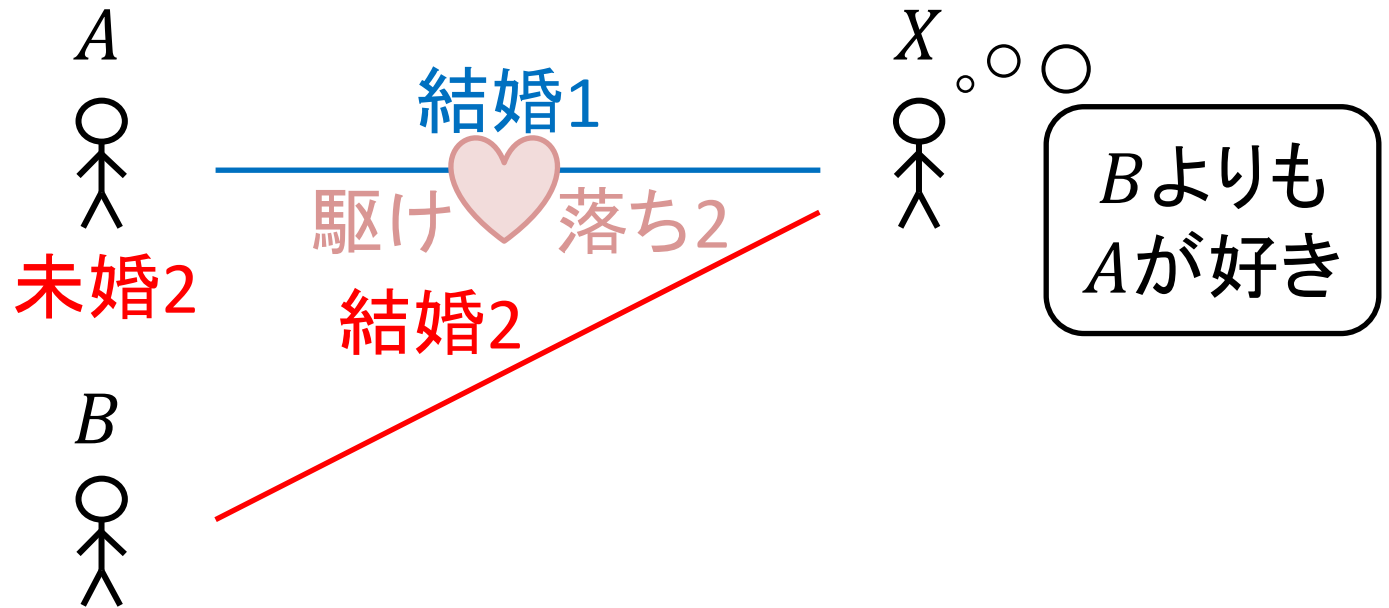
# 絶望の定理の証明

2つの安定結婚において、一方で既婚、他方で未婚であるような人Aが存在したとする



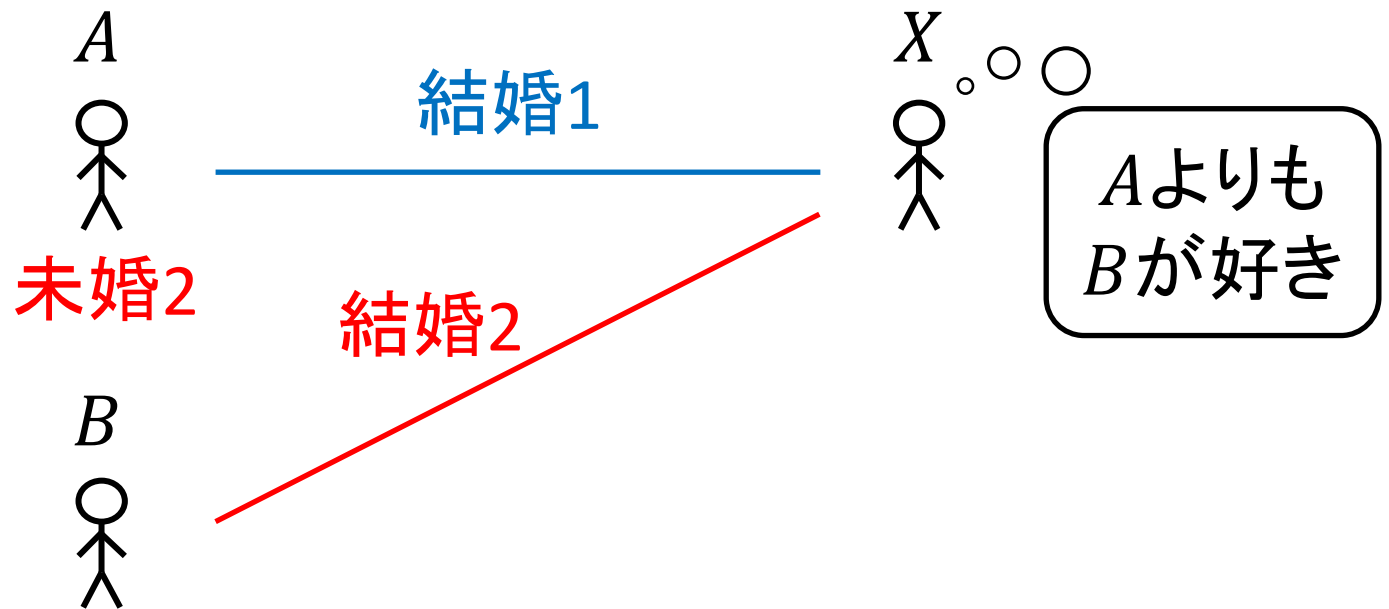
# 絶望の定理の証明

2つの安定結婚において、一方で既婚、他方で未婚であるような人Aが存在したとする



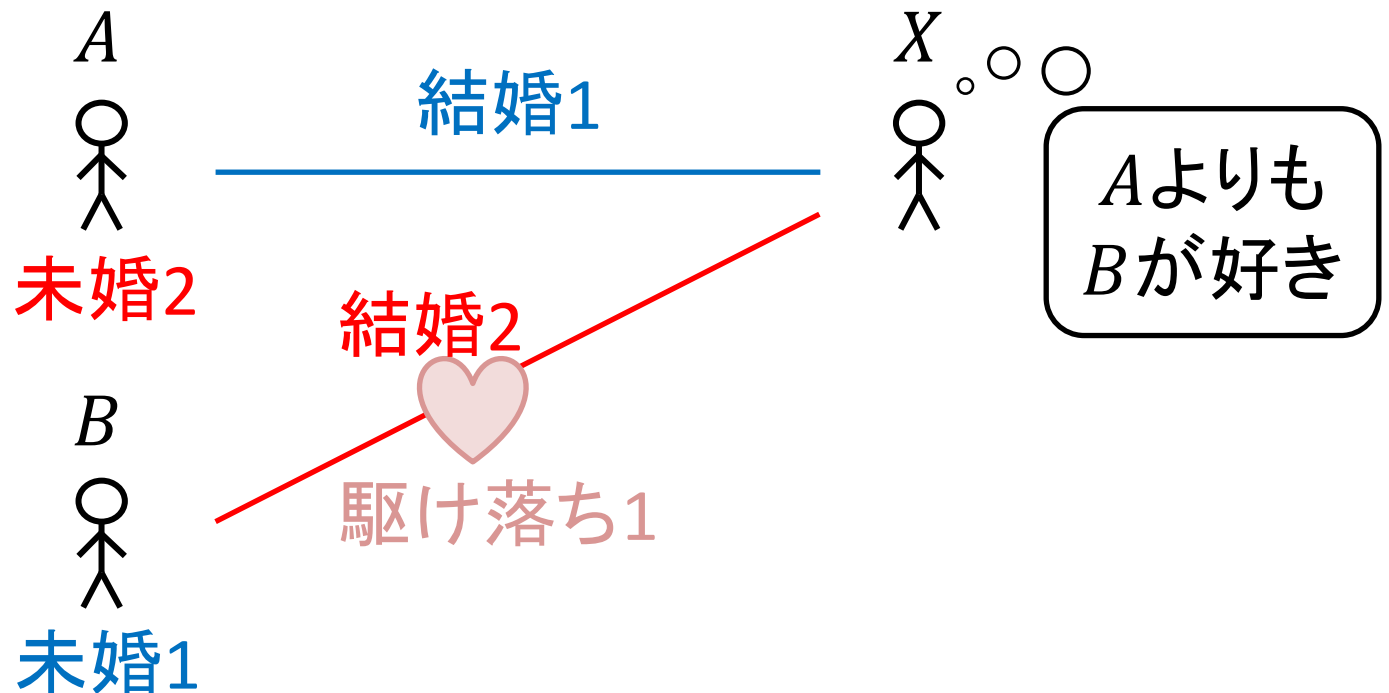
# 絶望の定理の証明

2つの安定結婚において、一方で既婚、他方で未婚であるような人Aが存在したとする



# 絶望の定理の証明

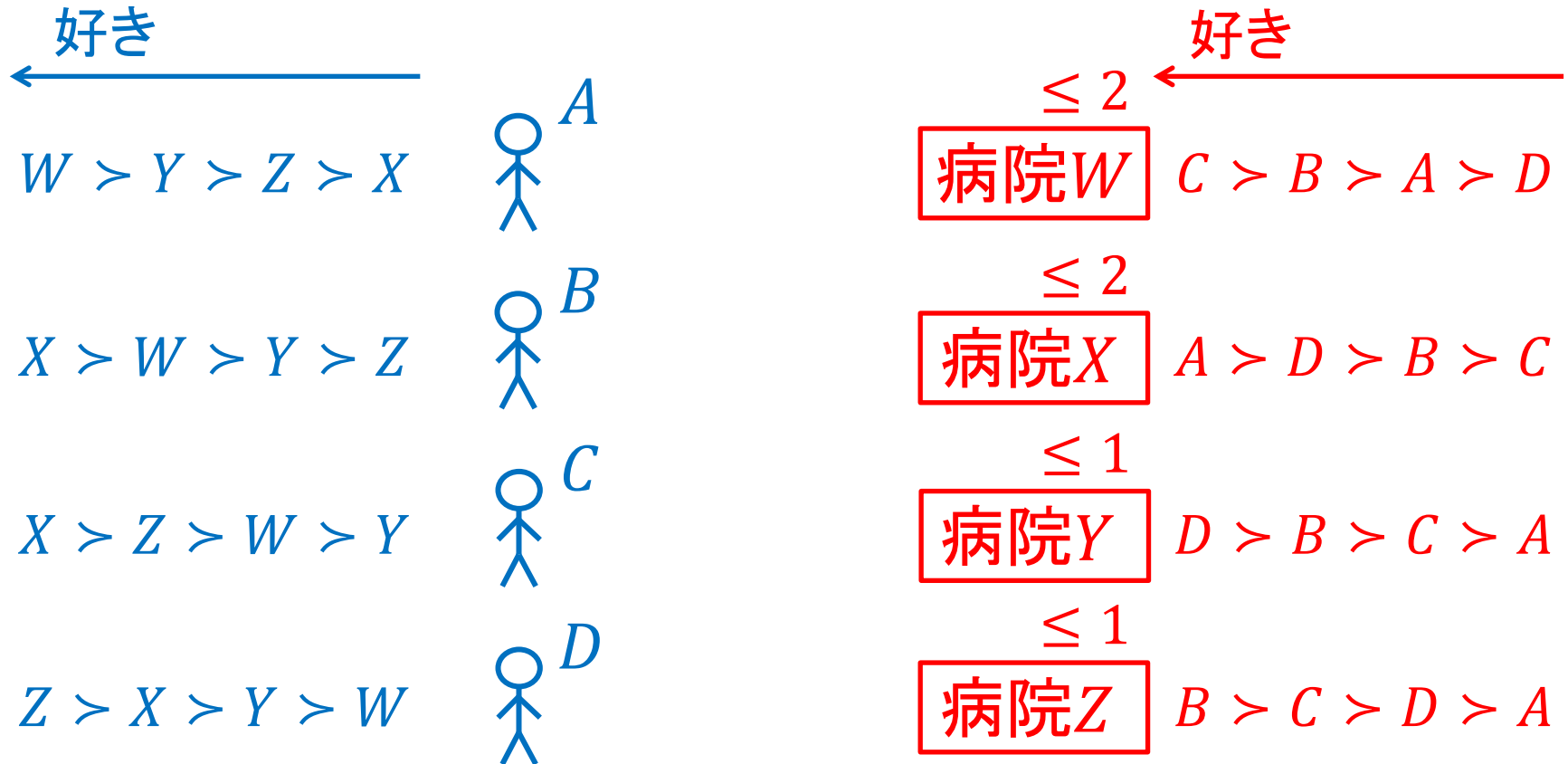
2つの安定結婚において、一方で既婚、他方で未婚であるような人Aが存在したとする





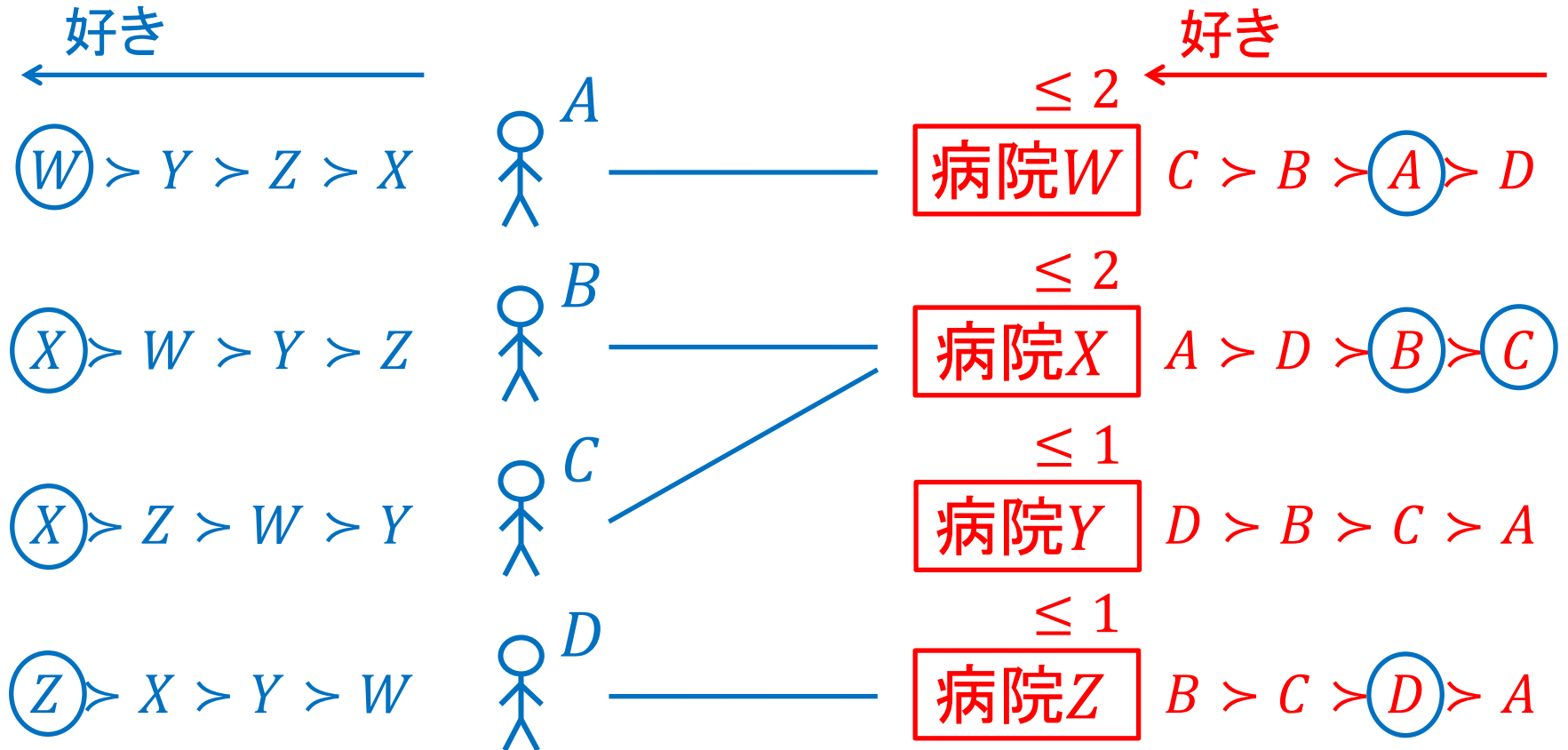


# 研修医配属問題 (一夫多妻制)



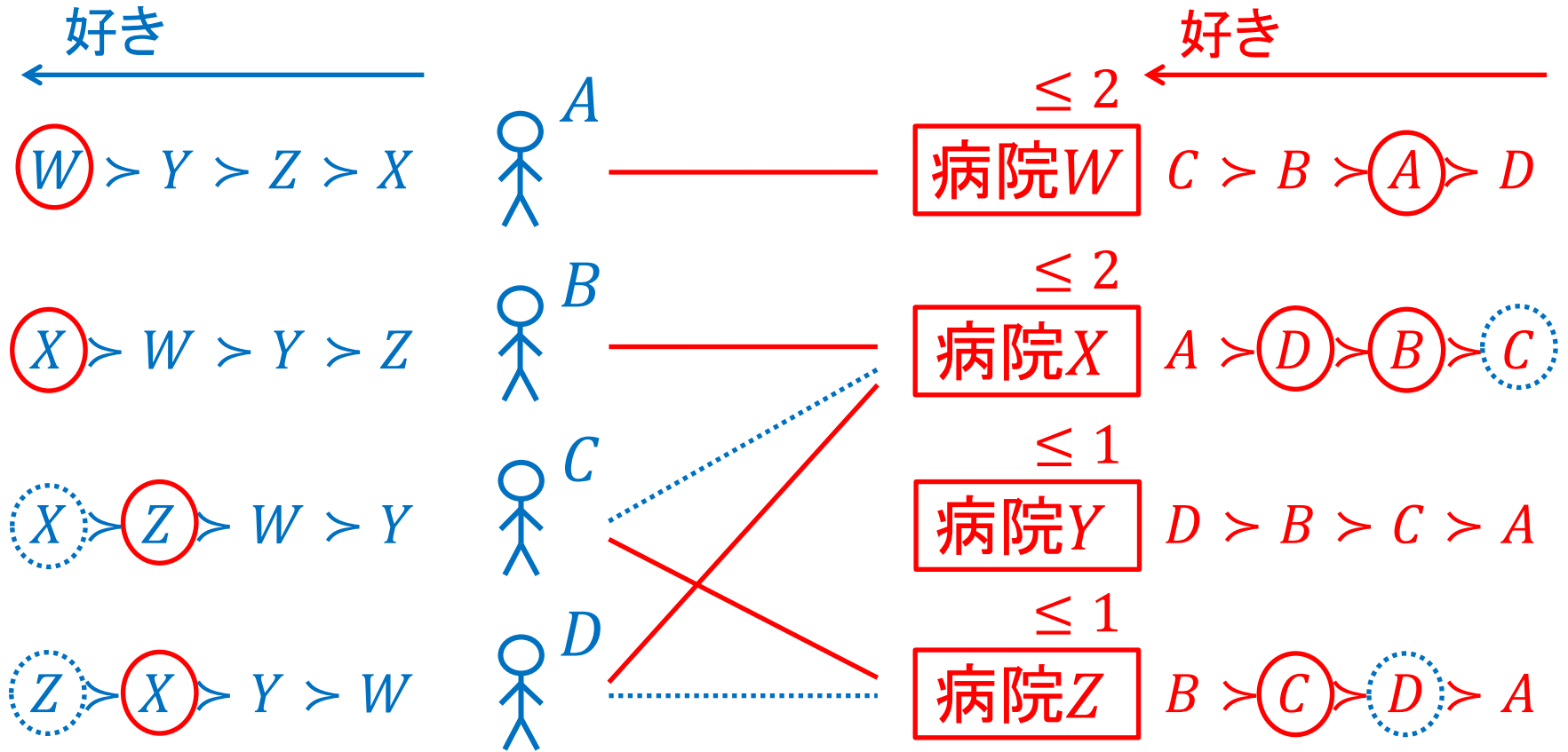
引き抜きが起きないように配属を決めたい

# 研修医配属問題 (一夫多妻制)



研修医側がプロポーズする場合に得られる安定配属

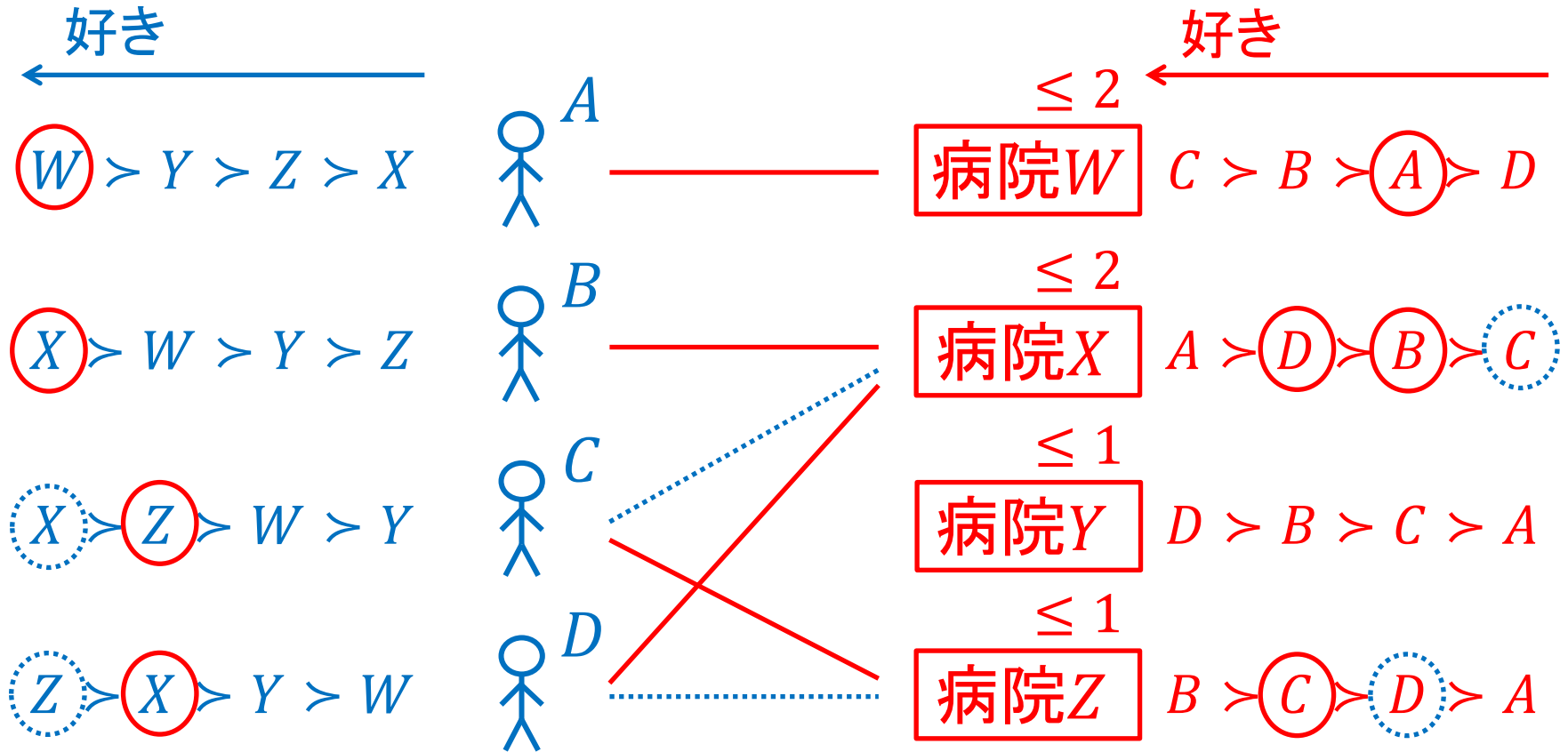
# 研修医配属問題 (一夫多妻制)



病院側がプロポーズする場合に得られる安定配属

# 田舎の病院定理

[Roth 1986]



- 各病院に**安定配属**で配属される研修医の数は同じ
- 定員に満たない病院に配属される研修医は常に同じ

# 全体の構成

- 個人が幸せになるためには
  - 1番好きな人と結婚できる確率を上げる
  - 結婚相手の順位の期待値を下げる
- **安定な結婚とは**
  - 駆け落ちが起こらないカップリング
  - 絶望の定理 (田舎の病院定理)
  - 嘘つきは得をするか

# 絶望の定理 (再掲)

ある安定結婚で誰とも結ばれない人は  
任意の安定結婚で誰とも結ばれない

# 希望の定理

ある安定結婚で誰かと結ばれる人は  
任意の安定結婚で誰かと結ばれる



# 欲望の心理

ある**安定結婚**で誰かと結ばれる人は

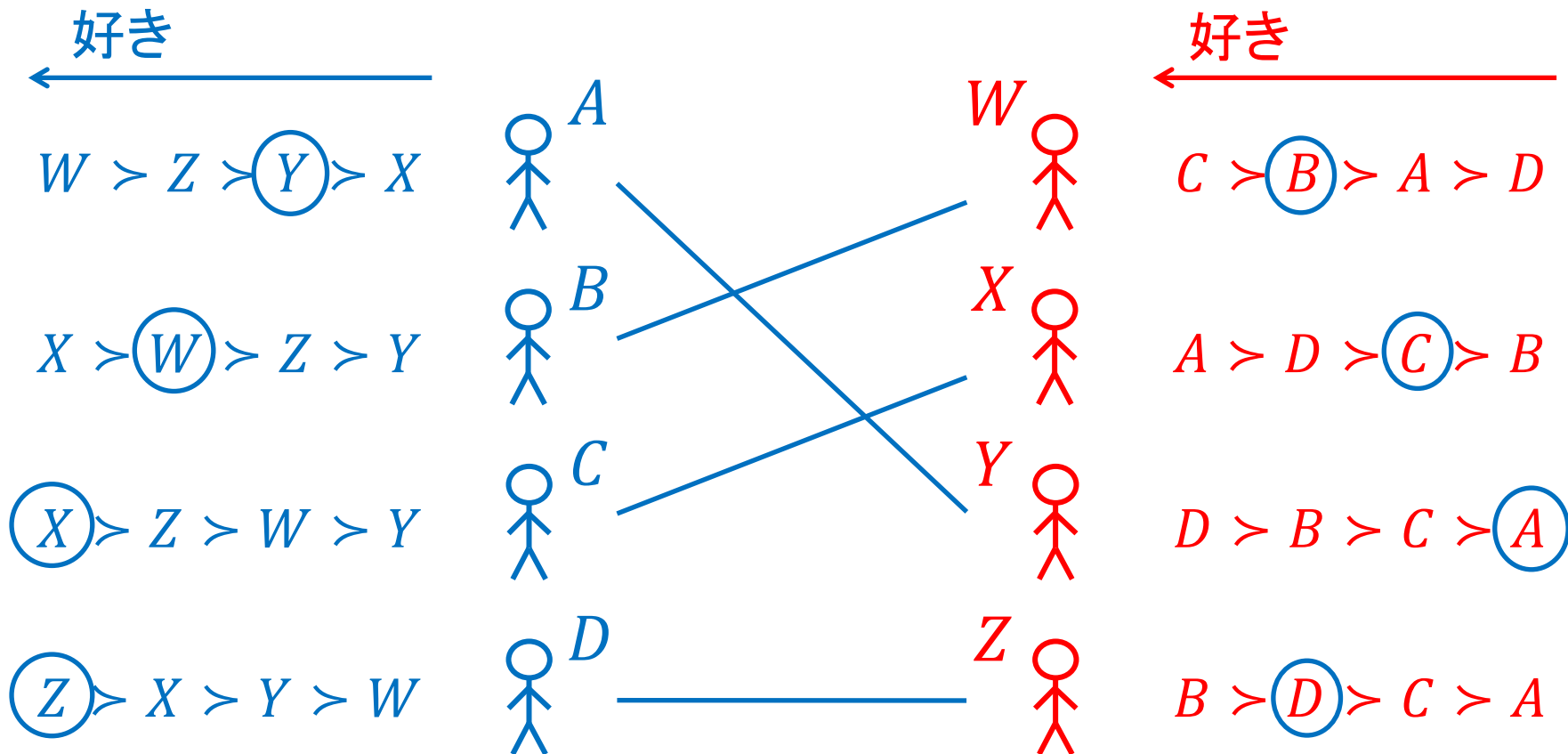
任意の**安定結婚**で誰かと結ばれる

**より良い相手と結ばれたい!!!**

# Gale-Shapleyアルゴリズム (再掲)

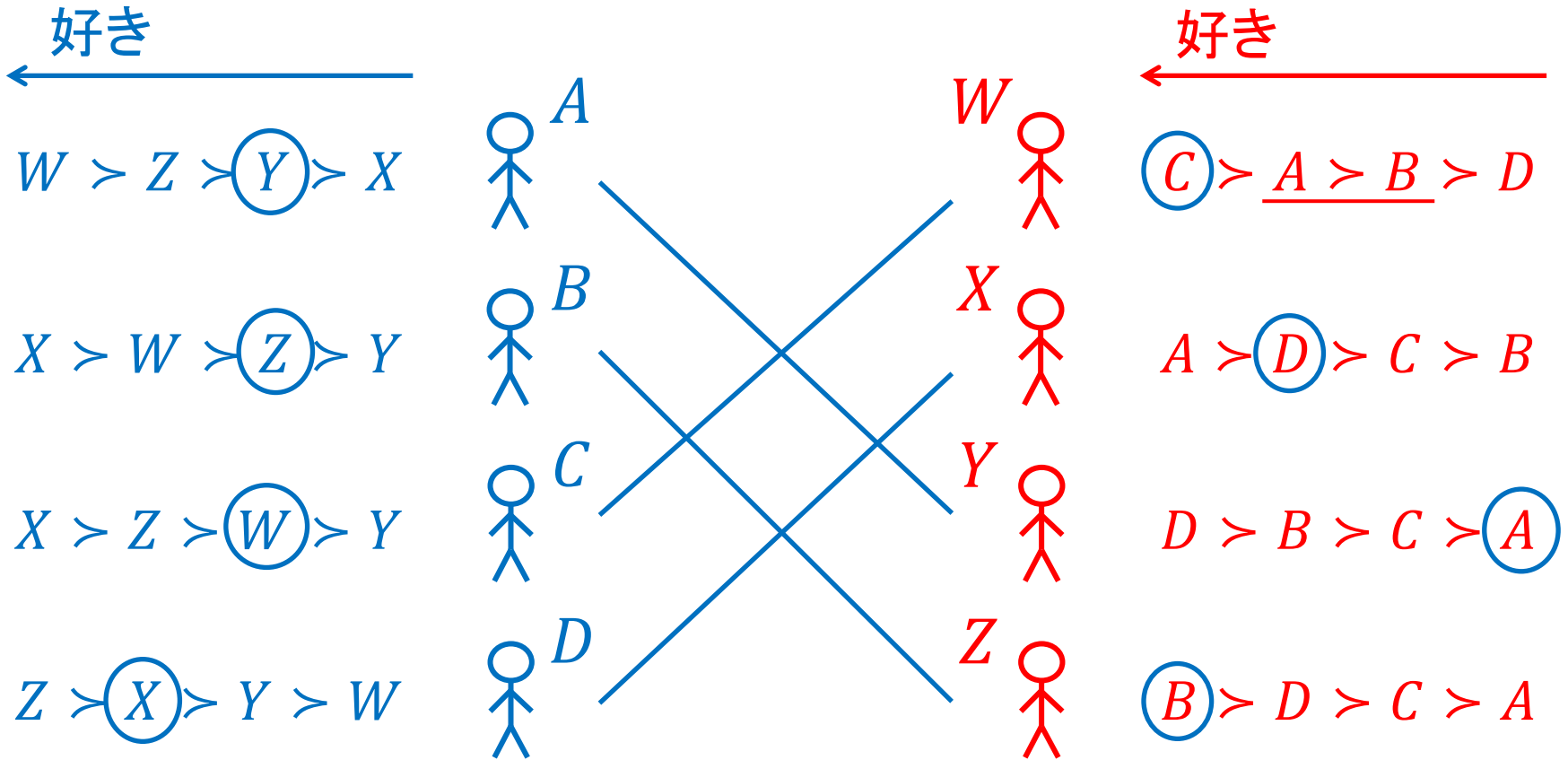
- 各男性は同じ女性に複数回プロポーズしない  
→ 高々 (男性数) × (女性数) 回で終了する
- 必ず**安定結婚**を見つける  
→ **安定結婚**の存在を保証
- 各男性・女性はそれぞれ, **安定結婚**で結ばれうる中で**最良の女性**・**最悪の男性**とカップリングされている
- 人数が異なる場合, 選好リストが不完全な場合, 一夫多妻制・多夫多妻制の場合にも上記が成り立つ

# 最初の例



男性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚

# Wが嘘をついた場合



男性側がプロポーズする場合に得られる安定結婚

# Gale-Shapleyアルゴリズムと耐戦略性

- **プロポーズ側**は嘘をついても得をしない (耐戦略的)
- **被プロポーズ側**は嘘をついて得をする場合がある
- 両側に耐戦略性を持つ**安定結婚**アルゴリズムはない

# Gale-Shapleyアルゴリズムと耐戦略性

- **プロポーズ側**は嘘をついても得をしない (耐戦略的)
- **被プロポーズ側**は嘘をついて得をする場合がある
- 両側に耐戦略性を持つ**安定結婚**アルゴリズムはない

正直にアタックしよう!!!

# 参考文献

Y. S. Chow, S. Moriguti, H. Robbins, S. M. Samuels:  
**Optimal Selection Based on Relative Rank (the “Secretary Problem”)**,  
*Israel Journal of Mathematics*, **2** (1964), pp. 81–90.

D. Gale, L. S. Shapley:  
**College Admissions and the Stability of Marriage**,  
*The American Mathematical Monthly*, **69** (1962), pp. 9–15.

A. Roth: **On the Allocation of Residents to Rural Hospitals  
(A General Property of Two-Sided Matching Markets)**,  
*Econometrica*, **54** (1986), pp. 425–427.